




# TOOLS for i88X/mLAN16E, TOOLS for MY16-mLAN, Plug-in Effect インストールガイド

i88Xをお買い上げいただいたお客さまへ

ユーザー登録カードに必要な事項をご記入の上、CBXインフォメーションセンターにお送りください。ユーザー登録手続を完了された方に限り、ユーザーサポートサービスを行なわせていただきます。ユーザー登録カードとシリアル番号予備シールは、CD-ROMと同じ袋に入っています。

## ご注意

- ❌ 一部のCD-ROMには、コピーできないようプロテクトがかけられています。お客様がこのCD-ROM/ソフトウェアの複製を試みた結果生じた損害については、ヤマハ株式会社は一切責任を負いかねますので、ご了承ください。
- ❌ このソフトウェアのCD-ROMは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ用CDプレーヤーでは絶対に使用しないでください。

- ・ このソフトウェアおよびインストールガイドの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・ 巻末にこのソフトウェアのソフトウェア使用許諾契約が記載されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこのライセンス契約をお読みください。CD-ROMを開封すると、この契約に同意したことになります。
- ・ このソフトウェアおよびインストールガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ このソフトウェアおよびインストールガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ mLANドライバーなどのソフトウェアは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。最新ソフトウェアは、下記URLからダウンロードできます。  
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/>
- ・ 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ OMS™および  は、Opcode Systems, Inc.の商標です。
- ・ Adobe, Adobeのロゴ, AcrobatおよびAcrobatのロゴは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- ・ 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ 「ソフトシンセサイザー」はヤマハ株式会社の商標です。
- ・ その他、このインストールガイドに掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・ アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。

# 目次

CD-ROMについて .....	3
データの対応OS(オペレーティングシステム) .....	3
CD-ROMの活用手順.....	3
Windowsユーザーの方へ.....	4
CD-ROMの内容.....	4
i88X/mLAN16Eソフトウェアの動作環境.....	6
ソフトウェアのインストール.....	8
コンピューターとmLAN機器をmLAN接続する.....	19
プラグインエフェクトのインストール (i88Xユーザーの方のみ).....	26
Mac OS 9ユーザーの方へ(i88X、mLAN16Eのみ).....	28
CD-ROMの内容.....	28
i88X/mLAN16Eソフトウェアの動作環境.....	30
ソフトウェアのインストール.....	32
コンピューターとmLAN機器をmLAN接続する.....	38
VSTプラグインエフェクトのインストール (i88Xユーザーの方のみ).....	43
Mac OS Xユーザーの方へ.....	44
メッセージ一覧.....	45
トラブルシューティング .....	46
付属アプリケーションソフトウェアのユーザーサポートサービス (i88Xユーザーの方のみ).....	48



以下の場合に、ノイズが発生することがあります。これらの操作を行なう前に、各機器の出力を下げてください。

- コンピューターやmLAN機器の電源をオン/オフする場合
- IEEE1394(mLAN)ケーブルを抜き差しする場合
- mLAN Auto Connectorを使ってmLAN接続する場合
- mLAN Auto Connector またはmLAN Graphic Patchbayでワーククロックマスター /スレブを変更する場合
- mLAN Managerでオン/オフを選択する場合(Windows)
- OSの起動時/終了時
- mLANソフトウェアのインストール/アンインストール時

## Windowsユーザーの方へ

- ・ インストールの途中でコンピューターの画面に以下のメッセージが表示されるまで、mLAN機器の電源を入れないでください。



# CD-ROMについて

## データの対応OS (オペレーティングシステム)

WindowsとMacintoshではデータの内容やインストール方法が異なります。以下、各OSに対応した説明をお読みください。

### ●i88X/mLAN16Eユーザーの方:

CD-ROMには、WindowsとMac OS 9に対応したソフトウェアが含まれています。  
Windows → 4ページからお読みください。  
Mac OS 9 → 28ページからお読みください。

### ●MY16-mLANユーザーの方:

CD-ROMには、Windowsに対応したソフトウェアが含まれています。Macintoshに対応したソフトウェアは含まれていません。  
Windows → 4ページからお読みください。

Mac OS X対応については、44ページをご参照ください。

## CD-ROMの活用手順

CD-ROMを開封する前に、巻末の「ソフトウェアのご使用条件」をお読みください。

- 1 i88Xユーザーの方は、ユーザー登録を行ないます。48ページ
- 2 お使いのコンピューターで同梱ソフトウェアが動作することを確認します。Windows 6ページ、Mac OS 9 30ページ
- 3 ドライバーをインストールします。  
Windows 9ページ、Mac OS 9 32ページ
- 4 i88Xユーザーの方は、プラグインエフェクトをインストールします。Windows 4ページ、Mac OS 9 28ページ
- 5 ソフトウェアを起動します。

これ以降の操作については、各ソフトウェアの取扱説明書(オンラインヘルプ/PDFマニュアル)をご参照ください。



PDFマニュアルをご覧になるには、コンピューターにAdobe Reader(無償)がインストールされている必要があります。Adobe Readerをお持ちでない方は、下記URLからAdobe社のページを開き、Adobe Readerをダウンロードしてください。  
<http://www.adobe.co.jp>

### こんなときは

- ・ サンプリングレート(ワードクロック)を変更したい..... 19、38ページ
- ・ mLANの送受信チャンネル数を設定したい..... 19、38ページ
- ・ mLANドライバーの設定を変更したい..... 15、36ページ
- ・ レイテンシーを設定したい..... 15ページ
- ・ ドライバーの削除、再インストールがしたい..... 8、24、35ページ
- ・ mLANによる通信ができない..... 46ページ
- ・ 複数のmLAN機器を接続したい..... 19、38ページ

# Windowsユーザーの方へ

## CD-ROMの内容

Windows用のソフトウェアがCD-ROMに納められています。(i88Xユーザーの方は、TOOLS for i88X/mLAN16Eからインストールをはじめます)

### ●TOOLS for i88X/mLAN16E

### ●TOOLS for MY16-mLAN

フォルダー名	ソフト名	説明
mLAN_	mLAN Applications for YAMAHA mLAN Tools	mLAN機器とコンピューターをmLAN接続して使用するのに必要なmLANドライバーやアプリケーションソフトウェアです。 <b>mLAN機器の電源を切った状態でインストールを開始します</b> (9ページ)。一度のインストール作業で、mLANに必要なすべてのソフトウェアがインストールされます。インストールされるソフトウェアには、mLANネットワークのオーディオ/MIDIのコネクションを、コンピューター上で設定するためアプリケーション「mLAN Auto Connector」や「mLAN Graphic Patchbay」も含まれます。

### ●Plug-in Effect(i88Xにのみ付属)

- ・ VST規格に対応したプラグインソフトです。
- ・ [スタート]→[(すべての)プログラム]→[YAMAHA VST Plugins]→各ソフトウェア→[オンラインマニュアル]でPDFマニュアルを表示できます。
- ・ VSTプラグインエフェクトのインストール手順は26ページをご参照ください。

フォルダー名	ソフト名	内容
VST_	O1X Channel Module* <sup>1</sup>	YAMAHA Digital Mixing Studio O1Xの各チャンネルに搭載されているEQ(イコライザー)とダイナミクス効果をコンピューターのCPUパワーを使って実現するソフトウェアです。YAMAHA Digital Mixerと同等の機能(ダイナミクス、4バンドEQ)をソフトウェアエフェクトとして使用できます。また、O1Xの設定をインポートできるので、O1Xで作成したソングを再現することができます。
	Pitch Fix* <sup>1</sup>	ボーカルのピッチ(音の高さ)編集を行なうためのソフトウェアです。ボーカルのピッチを修正するだけでなく、声質を変更することもできます。Pitch FixをホストアプリケーションからのMIDI情報でコントロールすることも可能です。ホストアプリケーション上での設定方法についても、Pitch Fix取扱説明書PDFをご参照ください。
	Vocal Rack* <sup>1</sup>	ボーカルレコーディング用のマルチエフェクターです。ハイパスフィルター、コンプレッサー、3バンドイコライザーなどの様々なエフェクトが用意されています。
	Final Master* <sup>1</sup>	マスタリング用のマルチエフェクターです。コンプレッサーとリミッター、ソフトクリップ機能が用意されており、3バンドの帯域分割処理が可能です。

\*1 これらのソフトウェアには電子マニュアルが付いています。

## ■ Open Plug-in Technologyについて

mLAN Graphic Patchbayは単独のアプリケーションソフトウェアとしてお使いいただけますが、さらに、WindowsではOpen Plug-in Technology(オープンプラグインテクノロジー)対応のソフトウェアのプラグインソフトとして使うこともできます。

Open Plug-in Technology(以下OPT)は、シーケンサーなどの音楽用ソフトウェアからMIDI機器をコントロールするための新しいソフトウェアプラグインフォーマットです。たとえば、シンセサイザー、プラグインボードの音色エディターや、ミキサーをコントロールするエディターなどを、別々に起動させるのではなく、OPTに対応したアプリケーションの中で動作させることができます。アプリケーションごとにMIDIドライバーの設定などをする必要がなくなり、音楽制作をより快適でシームレスに行なう環境を実現します。

### ホストアプリケーションのOPT対応レベル

OPT対応のホストアプリケーションは、以下の3つのレベルに分けられます。



**レベル 1 (PANELS) のホストアプリケーション**では、プラグインソフトウェアの基本的な機能をサポートしており、代表的な例としては、コンピューター上でプラグインソフト(エディターなど)のパネルを使って音色エディットができます。



**レベル 2 (PROCESSORS) のホストアプリケーション**では、プラグインソフトウェアからMIDIデータを受信するなど、レベル1よりも一歩進んだエディットができます。プラグインソフトウェアの多くの機能をサポートしていますが、一部対応していない機能(イベント挿入など)があります。



**レベル 3 (VIEWS) のホストアプリケーション**では、プラグインソフトウェアが持っているすべての機能が動作します。ヤマハのシーケンスソフトSOL/SOL2 やSQ01 はOPTレベル3(VIEWS)に対応しています。

## mLAN Graphic Patchbay動作表

mLAN Graphic Patchbayは、以下のように動作します。

ホストアプリケーション対応レベル	mLAN Graphic Patchbayの動作	
	動作可否	機能制限の内容
VIEWS(レベル3) 	動作する	なし
PROCESSORS(レベル2) 	動作する	なし
PANELS(レベル1) 	動作する	なし

mLAN Graphic Patchbayは、PANELS(レベル1)、PROCESSORS(レベル2)、VIEWS(レベル3)のホストアプリケーションですべての機能が動作します。

#### NOTE

- ホストアプリケーション側に対応する機能がない場合は、期待どおりに動作しない場合があります。対応レベルは、OPTのロゴで確認できます(ホストアプリケーションのバージョン情報などに表示されます)。

# i88X/mLAN16Eソフトウェアの動作環境

本機をmLANで使用したり、付属のソフトウェアをお使いいただくには、以下のコンピューター環境が必要です。

## NOTE

- ・ お使いのOSによっては、下記の仕様以上の条件を満たす必要があります。
- ・ 下記以外の付属ソフトウェアは、動作環境が異なる場合があります。詳しくは、各ソフトウェアのオンラインマニュアルなどをご覧ください。
- ・ 各社DAW (Digital Audio Workstation)の動作環境については、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

## □ i88X、mLAN16E、MY16-mLAN (mLAN Tools 2.0/mLAN Applications for Yamaha の動作環境含む)

この動作環境は、mLANソフトウェア、オーディオシーケンサー、プラグインエフェクトを含んだ総合的なものです。

OS : Windows XP Professional/  
XP Home Edition

コンピューター : Intel Pentium/Celeronファミリ  
のプロセッサを搭載したコンピューター

S400 (転送スピード  
400Mbps)のIEEE 1394  
(FireWire) 端子またはi.LINK  
端子を搭載したもの (\*1)

ハードディスク : 250MB (i88X)、50MB  
(mLAN16E、MY16-  
mLAN)

### ・ 推奨動作環境 (\*2)

○ コンピューターとmLAN機器を1対1で接続する場合

コンピューター : Intel Pentium 4  
2.2GHz以上

メモリー : 512MB以上

○ コンピューターと3台のmLAN機器を接続する場合

コンピューター : Intel Pentium 4  
2.6GHz以上

メモリー : 512MB以上

### ・ 最低動作環境 (\*2)

コンピューター : Intel Pentium 1.2GHz  
またはIntel Celeron  
1.7GHz以上

メモリー : 384MB以上

\*1 IEEE 1394 (FireWire) 端子またはi.LINK端子  
を搭載したコンピューターが必要です。搭載して  
いない場合は、PCまたはPCIカードなどを別途  
ご用意ください。

詳細な動作環境や推奨のPC、PCIカードにつ  
いては

[http://www.yamaha.co.jp/  
product/syndtm](http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm)

をご覧ください。

\*2 前記動作環境は標準的なシーケンスソフトウ  
ェアにて、下記のオーディオ/MIDIを再生しなが  
ら、同梱のソフトエフェクトなどを使用した場  
合です。お使いのシーケンスソフトウェアによ  
り異なる場合があります。

<推奨動作環境(コンピューターとmLAN機器を  
1対1で接続する場合)>

Fs=44.1kHz/24bit

Audio Driver

18In/18Out(i88X)

16In/8Out(mLAN16E)

16In/16Out(MY16-mLAN)

MIDI Driver

1In/10Out(i88X、MY16-mLAN)

3In/30Out(mLAN16E)

MIDI x16/Audio x12トラック再生

Audio x2トラック録音

Send Plug-in Soft Effect 2系統

Insert Plug-in Soft Effect 10系統

Plug-in Soft Synthesizer 2系統

Latency 5msec以下

<推奨動作環境(コンピューターと3台のmLAN  
機器を接続する場合)>

Fs=44.1kHz/24bit

Audio Driver 32In/32Out (合計)

MIDI Driver 4In/50Out (合計)

MIDI x16/Audio x8トラック再生

Audio x2トラック録音

Send Plug-in Soft Effect 2系統

Insert Plug-in Soft Effect 10系統

Plug-in Soft Synthesizer 2系統

Latency 5msec以下

<最低動作環境>

Fs=44.1kHz/16bit

Audio Driver

8In/2Out(i88X)

2In/2Out(mLAN16E、MY16-mLAN)

MIDI Driver

1In/1Out(i88X、MY16-mLAN)

2In/2Out(mLAN16E)

MIDI x16/Audio x12トラック再生

Send Plug-in Soft Effect 2系統

Insert Plug-in Soft Effect 6系統

Plug-in Soft Synthesizer なし

Latency 50msec程度

NOTE

- ・ 使用できるPCI/PCインターフェースカードの数は2つまでです。ただし、同時に使用できるインターフェースカードは1枚だけです。コンピューターに内蔵のIEEE 1394インターフェースを使用している場合は、IEEE 1394 PCI/PCインターフェースカードは1枚のみ使用できます。
- ・ ノートPCをご使用の場合、ノートPCの制約により、内蔵IEEE 1394が使用できないことがあります。このようなときは、PCカードをご使用ください。

**Plug-in Effect(i88Xにのみ付属)**

OS

: Windows XP Professional/XP Home Edition/2000/Me/98SE/98

mLANを使用するときは、コンピューターの起動後に、タスクバーのmLANアイコン(mLAN Manager)を右クリックして、mLANをONにしてください(14ページ)。

# ソフトウェアのインストール

ここで説明のないソフトウェアのインストールについては、「CD-ROMの内容」(4ページ)をご参照ください。

## アンインストール(アプリケーションの削除)

次の方法でインストールしたソフトウェアを削除することができます。  
[スタート](→[設定])→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]→[インストールと削除]  
で、削除したい項目を選択し、[追加と削除]をクリックします。  
ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。



- ・ ご使用のOSによりメニュー名やボタン名などが異なる場合があります。
- ・ mLANソフトウェアのアンインストールには以下の2項目の削除が必要です。1→2の順に削除してください。
  1. mLAN Applications for YAMAHA
  2. mLAN Tools 2.0
- ・ プラグインエフェクトのアンインストールについては27ページをご参照ください。

お使いのCD-ROMドライブのドライブ名(D:、E:、Q:など)をあらかじめご確認ください。ドライブ名は「マイコンピュータ」の中のCD-ROMアイコンの下に表示されています。(CD-ROMドライブのルートディレクトリーはそれぞれD:¥、E:¥、Q:¥などになります。)



# mLAN Tools 2.0/mLAN Applications for YAMAHAのインストール

mLAN Tools 2.0は、mLAN機器とコンピューターを接続するためのドライバーなどを含むソフトウェアです。

mLAN Applications for YAMAHAは、コンピューターとmLAN機器の間でオーディオ/MIDI信号をmLANケーブルを通じてやりとりするためのソフトウェアです。

このソフトウェアで、i88X、mLAN16E、MY16-mLAN、01XをコンピューターにmLAN接続することができます。01Xをお使いの方は、あらかじめ古いmLANソフトウェアをアンインストールしておいてください(01Xのインストールガイド参照)。

次の手順でインストールします。

## NOTE

- ・ エラーメッセージが表示されたときは45ページをご参照ください。

## インストール前の準備

- 1** mLAN機器のMIDI IN/OUTに接続されているMIDI機器の接続ケーブルをすべて外しておきます。
- 2** mLAN機器をコンピューターのIEEE 1394(FireWire/i.LINK)端子にハブを使わず直接つなぎ、mLAN機器以外のIEEE 1394機器は、コンピューターから外します。
- 3** mLAN機器の電源が切れているのを確認します。
- 4** コンピューターを起動して、administrator権限のあるアカウントでログインします。

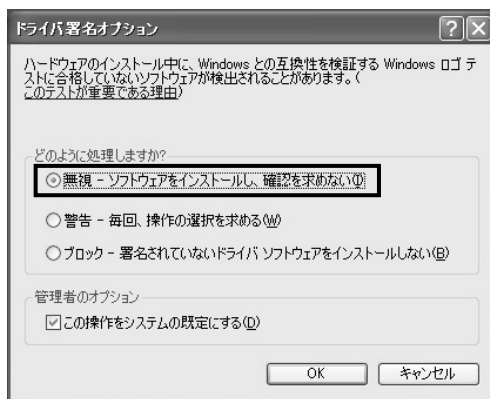
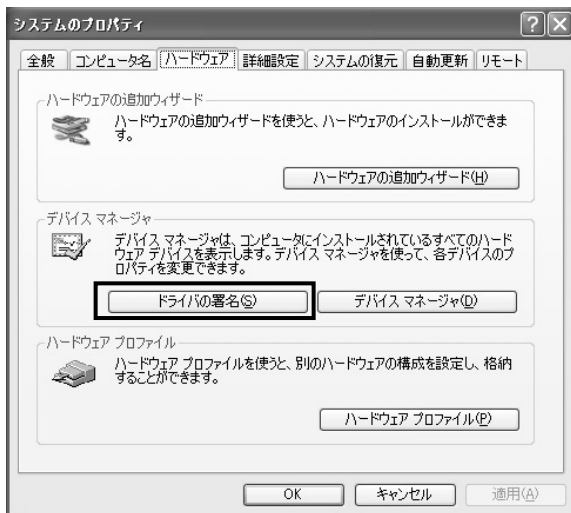
## NOTE

- ・ データレート規格がS200(お使いの機器のリアパネルまたは取扱説明書の「仕様」参照)のmLAN機器をお使いの場合は、あらかじめ古いmLAN Toolsをアンインストールしておいてください。アンインストール方法については、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

- 5** [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。コントロールパネルが下のように表示のときは、画面左上の「クラシック表示に切り替える」をクリックします。すべてのコントロールパネルとアイコンが表示されます。



- 6 [システム]→[ハードウェア]→[ドライバーの署名]→[ドライバー署名オプション]で「無視—ソフトウェアをインストールし、確認を求めない(I)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[OK]をクリックします。



インストールが終了したら、ここでの設定を元に戻してください。

- 7 ([システム]→[ハードウェア]→[デバイスマネージャ]の「1394バスホストコントローラ」に「！」や「×」マークがついていないことを確認します。「！」や「×」マークがついている場合は、mLAN(IEEE 1394/i.LINK)が使用できない設定になっています。詳細については、お使いのコンピュータの取扱説明書をご参照ください。

**8** [OK]をクリックしてシステムのプロパティを閉じてから、画面右上の「X」をクリックしてコントロールパネルを閉じます。

**9** アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

**10** 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

## mLANソフトウェア用インストーラーの起動

インストーラーは、以下の2つのソフトのインストールを行ないます。

- ・ mLAN Tools 2.0
- ・ mLAN Application for YAMAHA

### NOTE

インストールの中止には、必ずキャンセルボタンやクローズボタンを使用してください。  
[CTR]+[ALT]+[DEL]を使用して中止したり、インストールの途中で電源をオフにしたりすると、アンインストールが正常にできなくなる原因となります。

**11** 「mLAN\_」フォルダーをダブルクリックします。  
「Setup.exe」などのファイルが表示されます。

**12** 「Setup.exe」をダブルクリックします。

**13** いくつか確認のメッセージが表示されますので、問題なければ[OK]をクリックします。インストールの準備が終わると、「よろこそ」という画面が表示されます。



## mLAN Tools 2.0のインストール

**14** [次へ]をクリックします。mLAN TOOLSのインストール開始画面が表示されます。

**15** [次へ]をクリックします。「インストール先の選択」画面が表示されますので、mLAN TOOLSをインストールするドライブとフォルダー名を決めます。自動的にインストール先が選択されています。インストールするドライブとフォルダー名を変えたい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択します(ドライブ: ¥フォルダー名)。インストール先を確認/選択したら[次へ]をクリックします。

### NOTE

通常はインストール先を変更する必要はありません。

**16** ドライブとフォルダー名(ディレクトリー)を確認して、[次へ]をクリックします。インストールが開始されます。

### NOTE

インストールを中断するには、[キャンセル]をクリックしてください。  
インストール中、「ログテストに合格していません」というメッセージが表示された場合は、「続行」をクリックします。インストールを中止する必要はありません(この先の手順でも同様です)。メッセージが表示されない場合はそのまま次の手順に進みます。

**17** インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。  
[完了]をクリックします。

## mLAN Applications for YAMAHA(mLANソフトウェア)のインストール

mLAN Tools 2.0のインストールが終わると、自動的にmLAN Applications for YAMAHAのインストール開始画面が表示されます。  
[次へ]をクリックします。

**18** 「インストール先の選択」画面で、インストールするドライブとフォルダー名を決めます。自動的にインストール先が選択されています。インストールするドライブとフォルダー名を変えたい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください(ドライブ: ¥フォルダー名)。

### NOTE

- ・通常はインストール先を変更する必要はありません。

**19** ドライブとフォルダー名(ディレクトリー)を確認して、[次へ]をクリックします。インストールが開始されます。

### NOTE

- ・インストールを中断するには、[キャンセル]をクリックしてください。

**20** インストールが完了すると、「コンピューターを再起動してください」というメッセージが表示されます。  
[OK]をクリックします。

### インストールを途中で終了した場合について

インストールを途中で終了した場合、ソフトウェアが不完全な状態で、インストールされている可能性があります。正しくソフトウェアをインストールするには、以下の作業を行なってください。

**1** プログラムの追加と削除(8ページ)を起動し、リストに「mLAN Applications for YAMAHA」、「mLAN Tools 2.0」がないかを確認します。

**2** 「mLAN Applications for YAMAHA」、「mLAN Tools 2.0」の順に削除します。

**3** 手順12のインストーラーを再起動します(11ページ)。

## mLANドライバーの初期設定

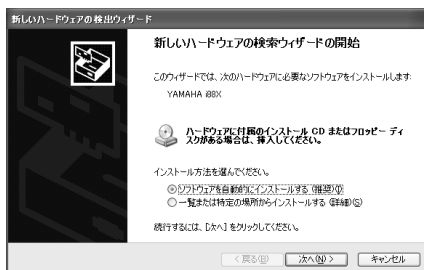
コンピューターが再起動したら、mLANドライバーの初期設定を行ないます。mLAN Managerから[ON]を選択し、mLANドライバーを起動します(14ページ)。

**21** 「mLAN機器の電源を入れるよう求めるダイアログが表示されますので、i88X、mLAN16E、MY16-mLAN(またはO1X)をコンピューターに接続してmLAN機器の電源を入れます。

**22** mLAN機器のインストール「新しいハードウェアの検出ウィザード」が自動的に表示されます。「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。

### NOTE

- ・お使いのWindowsによっては、「新しいハードウェアの検出ウィザード」で、「ソフトウェア検索のためWindows Updateに接続する/しないを選択する」画面が表示される場合があります。この画面では、「接続しない」にチェックを入れてから[次へ]をクリックしてください。以降の手順でこのような画面が表示された場合も、「接続しない」にチェックを入れてから[次へ]をクリックしてください。



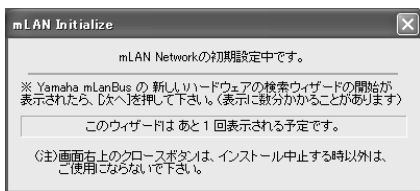
**23** 接続したmLAN機器のインストールが完了したら、**21**で表示したmLAN機器の電源を入れるよう求めるダイアログの[OK]をクリックします。

**24** 「ドライバーの初期設定を行ないます」というダイアログが表示されます。[OK]をクリックします。

**NOTE**

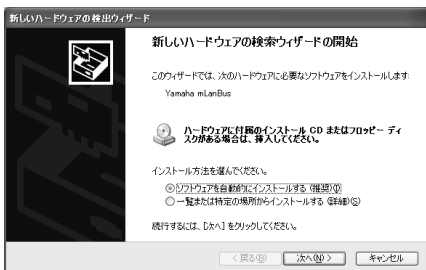
手順**25-26**と手順**28-29**の間、それぞれのドライバーの初期設定中であることを示すウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、それぞれの手順で「新しいハードウェアの検出ウィザード」があと何回表示されるかを示します。インストールを中止するとき以外は、このウィンドウを閉じないでください。

例)



## mLAN Network ドライバーの初期設定

**25** 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が自動的に表示されます。「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。

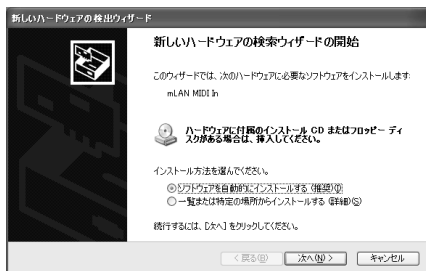


**26** インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。[完了]をクリックします。

**27** mLAN Bus ドライバーの初期設定中であることを示すウィンドウが消えるまで、**25-26**の手順を繰り返します。

## mLAN MIDI Port ドライバーの初期設定

**28** 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が自動的に表示されます。「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。



**29** インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。[完了]をクリックします。

**30** mLAN Stream Driverの初期設定中であることを示すウィンドウが消えるまで、**28-29**の手順を繰り返します。

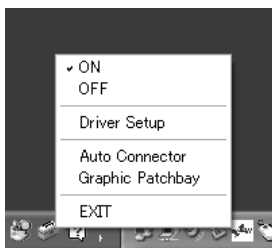
**31** 「mLANドライバーの初期設定が完了しました」というメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。mLANでは、オーディオシーケンサーなどを使う前にmLAN Auto ConnectorまたはGraphic PatchbayでコンピューターとmLAN機器を接続する必要があります(19ページ)。

## インストール後の確認

### タスクバー

mLAN Manager (mLANアイコン)が追加されます。右クリックでメニューが表示されます。

mLANを使用するには、タスクバーのmLAN Managerを右クリックし、「ON」を選択します。



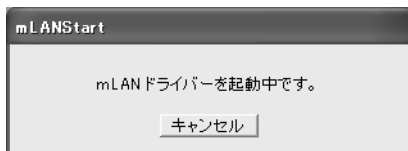
- ON**.....mLANを使用できる状態にします(mLAN Startを起動します)。  
**OFF**.....mLANを終了します(mLAN Stopを起動します)。mLANを使用しないときに、コンピューターの負荷を軽くできます。  
**Driver Setup**.....mLAN Driver Setup(15ページ)を起動します。  
**Auto Connector**.....mLAN Auto Connectorを起動します。(19ページ)  
**Graphic Patchbay**.....mLAN Graphic Patchbayを起動します。詳細はmLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルをご参照ください。  
**EXIT**.....mLAN ON/OFFの状態はそのまま、タスクバーからmLANのアイコンを削除します。再度表示させるには、[スタート]→[(すべての)プログラム]→[スタートアップ]から[mLAN Manager]を選択します。

### NOTE

- ・ mLANを使用するときは、コンピューターの起動後に、タスクバーのmLANアイコン(mLAN Manager)を右クリックして、mLANをONにしてください。
- ・ mLAN Driver Setup(15ページ)を使って、mLANによるデータの送受信が正常に行なわれているかを確認することができます。

### mLANをオンにしたとき

mLANの起動中にメッセージが表示されます。



キャンセルする場合は、mLAN Startの画面で [キャンセル] をクリックします。mLANを使用する場合は、タスクバーのmLANアイコン(mLAN Manager)を右クリックして、[ON]を選択しします。

### デバイスマネージャー

- 1 [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択します。
- 2 [システム] アイコンをダブルクリックして、「システムのプロパティ」を表示させます。
- 3 [ハードウェア] のタブを選び [デバイスマネージャ] をクリックします。
- 4 [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントロール] の左側の [+ ] マークをクリックし、「YAMAHA i88X」や「YAMAHA mLAN16E」、「YAMAHA MY16-mLAN」などが表示されていることを確認します。また、「YAMAHA mLANBus」表示があることを確認します。

## インストール後の設定変更

インストール後のmLANに関する設定変更は、mLAN Driver Setup画面で行ないます。

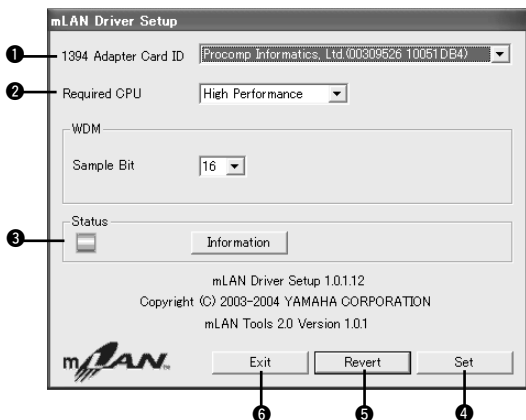
### mLAN Driver Setup

#### (タスクバーのmLANアイコンを右クリック→Driver Setup)

mLAN通信の設定や送受信の確認をするための画面です。設定を変更する場合は、mLANを使用しているアプリケーション(DAWなど)を終了してください。

#### NOTE

- ・ ワードロック(サンプルレート)、使用するチャンネル数を変更するには、タスクバーのmLANアイコンを右クリックしてAuto ConnectorまたはGraphic Patchbayを起動します。



#### ① 1394 Adapter Card ID

コンピューターに装着されているIEEE 1394(FireWire/i.LINK)インターフェースカードのIDが表示されます。カードが複数装着されている場合には、設定の対象となるカードを選択します。mLANドライバーが認識していないカードは表示されません。

#### NOTE

- ・ お使いのカードによっては、正しいベンダー(メーカー)名が表示されないことがあります。

#### ② Required CPU

必要とするコンピューターの処理能力(mLANドライバーがコンピューターにかける負荷の量)を設定します。コンピューターにかける負荷の量は、「ASIO mLAN Control Panel」のレイテンシーでも調整できます(下記参照)。

### レイテンシーとRequired CPUの関係について

お使いのコンピューターの性能(CPUの速度やシステムメモリーのサイズ)により、オーディオシーケンサーなどのアプリケーションを使用する際に、ノイズが発生するなど、オーディオデータを正しく録音/再生できない場合があります。一般的にこのような場合、レイテンシー(遅延時間)を調節することで、問題を解決できます(16ページ「mLANのレイテンシー」参照)。

ただし、コンピューターの性能や使用状況(ほかのアプリケーションを同時に使用したり、mLAN機器を複数接続している場合など)によっては、レイテンシーを大きくしてもノイズや音切れが起こる場合があります。その場合は、「Required CPU」でコンピューターにかける負荷の量を減らして(「Medium Performance」や「Low Performance」に設定して)から、再度レイテンシー(16ページ「Preferred Buffer Size」)を調節してください。

- ・ レイテンシーの値が小さい.....遅延時間が短く、リアルタイムプレイに適しています
- ・ レイテンシーの値が大きい.....遅延時間が長くなる分、プラグインエフェクトや扱うオーディオチャンネル数を多くできます(コンピューターにかかる瞬間的な負荷を軽減できます)

また、逆に、レイテンシー（下記「Preferred Buffer Size」）を最小にしてもノイズや音切れが起きない場合には、Required CPUを「High Performance」などに設定してから再度レイテンシーを調整することで、全体的なレイテンシー値を最小にすることができます。

## ●mLANのレイテンシー

### オーディオのレイテンシー

オーディオのレイテンシーは、「ASIO mLAN Control Panel」で選択する「Preferred Buffer Size」で決まります。

オーディオのレイテンシーの値は、「ASIO mLAN Control Panel」に表示されます(下記参照)。

### MIDIのレイテンシー

mLANドライバーのバージョンによっては、MIDIのレイテンシーが変わることがあります。

mLANドライバーのバージョンでのMIDIレイテンシーについては、「Program files」→「mLAN Tools」→「YAMAHA」フォルダーの「MIDI\_Latency.txt」をご参照ください。

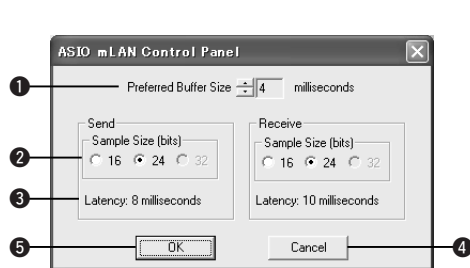
## ●ASIO mLANコントロールパネル

ASIO mLAN Control Panelを起動すると、以下のダイアログボックス(ASIO mLAN Control Panel)が表示されます。

mLAN ASIOドライバーの場合、必要に応じて、アプリケーションのドライバー設定(お使いのオーディオインターフェースによってメニュー構成が異なります)内でASIO mLANコントロールパネルを開いて、Preferred Buffer Sizeを設定します。



- ・ mLAN WDMドライバーの場合も同様に、必要に応じてアプリケーションのドライバー設定内で、ASIOドライバーのLatency値に相当するWDMドライバーのLatency値を調整します。
- ・ mLAN ASIOドライバーのPreferred Buffer Sizeの初期設定は、最小値になっています。



### ④ OK

設定した内容を有効にしてダイアログボックスを閉じます。

### ⑤ Cancel

設定の変更をせずにダイアログボックスを閉じます。

### ① Preferred Buffer Size

ASIO mLANドライバー内部で使用するバッファのサイズの値を指定します。

### ② Sample Size

オーディオデータの送信/受信のビット数をそれぞれ選択します。

### ③ Latency

オーディオデータの送信/受信のビット数をそれぞれ選択します。Preferred Buffer Size(①)で選択するバッファサイズで決まります。



### ③ Status

Auto Connectorをお使いの場合は、mLAN機器からコンピューターへの送信データ(MIDI/オーディオ)の状態を表示します。エラー発生時には、メッセージが表示されます。Graphic Patchbayをお使いの場合のエラー表示については、Graphic Patchbayオンラインマニュアルをご参照ください。

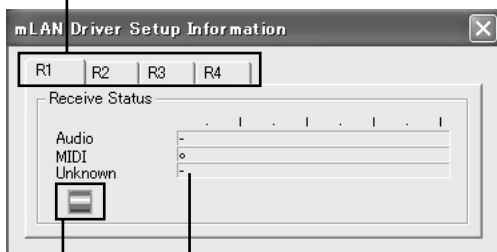
青 .....正常に受信している状態です。  
黄 .....MIDIかオーディオの一方だけ受信している状態です。  
赤 .....エラーが起きています。  
グレー .....受信していません。

### Information画面

mLAN機器からコンピューターへの受信の状態をMIDIとオーディオに分けて表示します。

#### R1, R2...

受信の状態を表示します。mLAN機器では、R1でMIDI、R2でAudioの状態を確認します。表示されるタブの数は、お使いのコンピューターによって異なります。



#### Receive Status

それぞれのフォーマットのデータが何番目のシーケンスとして受信されているかを示す記号が表示されます。「o」はそのフォーマットのデータが受信されていることを示します。たとえば、「Audio」欄で「ooooooooo-」と表示された場合は、受信されているシーケンスは全部で9個で、そのうちの最初の8つがオーディオデータであることを示しています。未知のフォーマットのシーケンスが存在する場合には、「Unknown」欄に表示されます。mLAN データが何も受信されていないときには、これらの欄は空白となります。受信時にエラーが発生した場合は、赤でメッセージが点滅します。送信側の機器の状態をご確認ください。

#### アイコン

青 .....正常に受信している状態です。  
赤 .....エラーが起きています。  
グレー .....受信していません。

### ④ Set

設定した内容を、実際に有効にするためのボタンです。この画面で変更した設定は、[Set] をクリックするまでは有効になりません。

[Set] をクリックすると、このボタンでそれ以前の状態に戻すことはできません。

### ⑤ Revert

設定した内容を、最後に「Set」をクリックしたときの状態に戻すためのボタンです。一度

### ⑥ Exit

mLAN Driver Setup画面を閉じます。

## mLANオーディオチャンネルにコンピューターのシステム音が出力される場合の対処

以下のように設定した場合、コンピューターのシステム音(警告音など)がmLANオーディオチャンネルに出力されます。

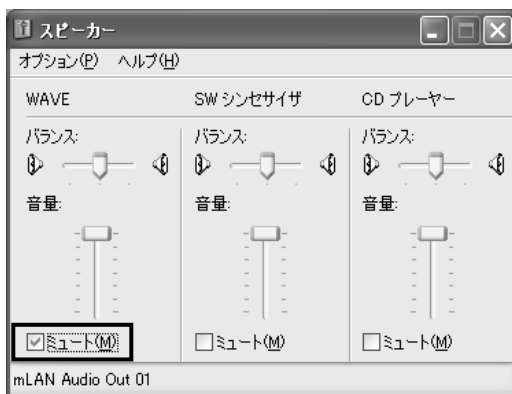
- ・ Auto ConnectorまたはGraphic Patchbayで、WDMを使用する設定にしている。
- ・ WindowsのシステムのオーディオデバイスでmLAN WDMドライバー ("mLAN Audio Out/In 01")を選択している。

システム音をmLANオーディオチャンネルに出力しないようにするには、以下の設定をしてください。



- ・ 以下の設定をすると、WAVE音がコンピューターで鳴らなくなります。

- 1 [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[音声]の[音声再生]から[音量]をクリックします。スピーカー画面が表示されます。



- 2 WAVEの欄のミュートのチェックボックスにチェックを入れます。

# コンピューターとmLAN機器をmLAN接続する

ここでは、mLAN Auto Connectorを使って、コンピューターとmLAN機器を1対1でmLAN接続する手順について説明します。

mLAN Auto Connectorを使うと、ワードクロックやオーディオ入力チャンネル数を選ぶだけで簡単な接続が可能です。

コンピューターと複数のmLAN機器を接続する場合は、mLAN Graphic Patchbayを使用します。mLAN Graphic Patchbayについての詳細は、mLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルをご参照ください。

**!** 以下の場合に、ノイズが発生することがあります。これらの操作を行なう前に、各機器の出力を下げてください。

- コンピューターやmLAN機器の電源をオン/オフする場合
- IEEE1394(mLAN)ケーブルを抜き差しする場合
- mLAN Auto Connectorを使ってmLAN接続する場合
- mLAN Auto Connector またはmLAN Graphic Patchbayでワードクロックマスター/スレーブを変更する場合
- mLAN Managerでオン/オフを選択する場合 (Windows)
- OSの起動時/終了時
- mLANソフトウェアのインストール/アンインストール時

## NOTE

- Graphic Patchbayで設定した後にAuto Connectorを使うと、Graphic Patchbayでの接続はキャンセルされます。

・ mLAN Graphic Patchbayでも、コンピューターとmLAN機器を1対1で接続できます。

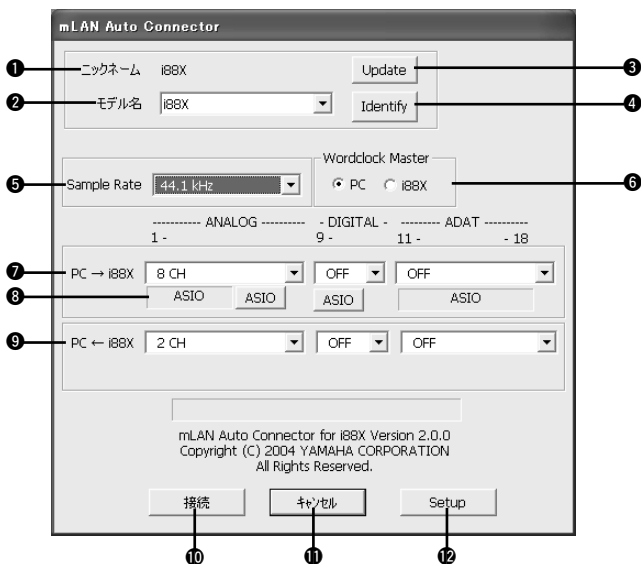
・ mLAN Auto Connector の画面は、接続するmLAN機器によって異なります。

**1** コンピューターとmLAN機器をIEEE1394ケーブルで接続します。

**2** タスクバーの「YAMAHA mLAN Manager」アイコンを右クリックし、「Auto Connector」を選択します。

**3** mLAN Auto Connector上でワードクロックの設定やオーディオチャンネル数などの設定を行ない(下記参照)、「接続」ボタンをクリックします。コンピューターとmLAN機器をmLAN接続します。

## i88Xの場合



### ① ニックネーム

i88Xのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

### ② モデル名

複数のmLAN機器とコンピューターをIEEE 1394ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。

### ③ 「Update」 ボタン

mLANネットワークに接続されたmLAN機器の情報を更新します。Auto Connectorを起動している状態で、新たにmLAN機器を接続した場合などにお使いください。

### ④ 「Identify」 ボタン

このボタンをクリックすると、i88X本体のACTIVEランプがしばらく点滅します。

### ⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

### ⑥ Wordclock Master

コンピューターとi88Xのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

### ⑦ PC→i88X

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からi88Xに入力するオーディオチャンネル数を設定します。i88Xに入力されたオーディオは、それぞれi88X本体のOUTPUT 1~8端子(ANALOG)、DIGITAL STEREO COAXIAL/OPTICAL OUT端子(DIGITAL)、ADAT OUT端子(ADAT)から出力されます。

### ⑧ ASIO/WDM切り替えボタン

使用する環境に合わせて、ASIO/WDMドライバーのどちらかを選択します。



・「ANALOG」では、選択したチャンネル数のうち、ASIOのうちの2チャンネルをWDMで使います。WDMチャンネルの信号はi88XのOUTPUT 7、8チャンネルから出力されます。

### ⑨ PC←i88X

i88Xのオーディオ出力(INPUT 1~8端子(ANALOG)、DIGITAL STEREO COAXIAL/OPTICAL IN端子(DIGITAL)、ADAT IN端子(ADAT)から入力されたオーディオ)から、コンピューターに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

### ⑩ 「接続」 ボタン

i88XとコンピューターをmLAN接続します。接続が完了すると、mLAN Auto Connectorの画面は自動的に閉じられます。

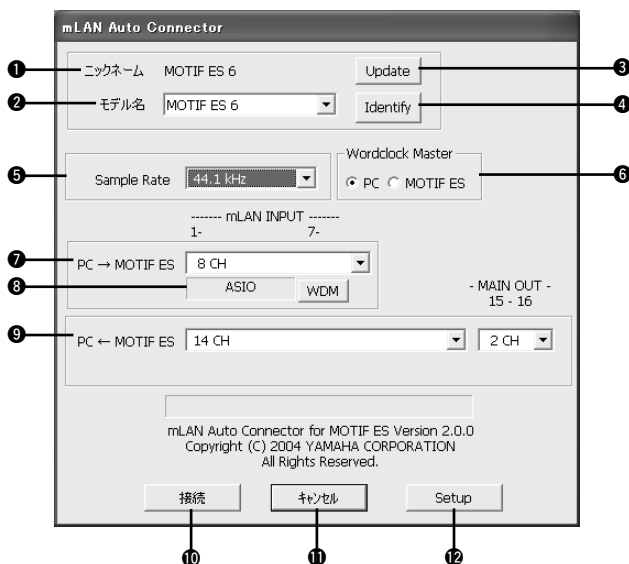
### ⑪ 「キャンセル」 ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

### ⑫ 「Setup」 ボタン

i88X Control Panel画面が表示されます。この画面で「Wordclock Transition Speed」を設定します。

## mLAN16E (MOTIF ES)の場合



### ① ニックネーム

mLAN16Eのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

### ② モデル名

複数のmLAN機器とコンピューターをIEEE1394ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。  
mLAN16Eの場合、mLAN16Eを取り付けた機器の名前を選択します。

### ③ [Update] ボタン

i88Xの[Update]ボタンと同じ機能です。

### ④ [Identify] ボタン

このボタンをクリックすると、mLAN16E本体のACTIVEランプがしばらく点滅します。

### ⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

### ⑥ Wordclock Master

コンピューターとmLAN16Eのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

### ⑦ PC→MOTIF ES

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からmLAN16Eに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

### ⑧ ASIO/WDM切り替えボタン

使用する環境に合わせて、ASIO/WDMドライバーのどちらかを選択します。

### NOTE

・ MOTIF ESの場合、「mLAN INPUT」で選択したチャンネル数のうち、ASIOのうちの2チャンネルをWDMで使います。WDMチャンネルの信号はMOTIF ESに入力する「mLAN IN 7/8CH」となります。

## ⑨ PC←MOTIF ES

mLAN16Eの出力から、コンピューターに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

### NOTE

- ・ mLAN16E対応機器によって、転送できるオーディオチャンネル、MIDIポート数は異なります。
- ・ MOTIF ESにmLAN16Eを取り付けた場合のオーディオ/MIDI接続についての詳細は、mLAN16E取扱説明書の「システム構成例」をご参照ください。

## ⑩「接続」ボタン

mLAN16EとコンピューターをmLAN接続します。接続が完了すると、mLAN Auto Connectorの画面は自動的に閉じられます。

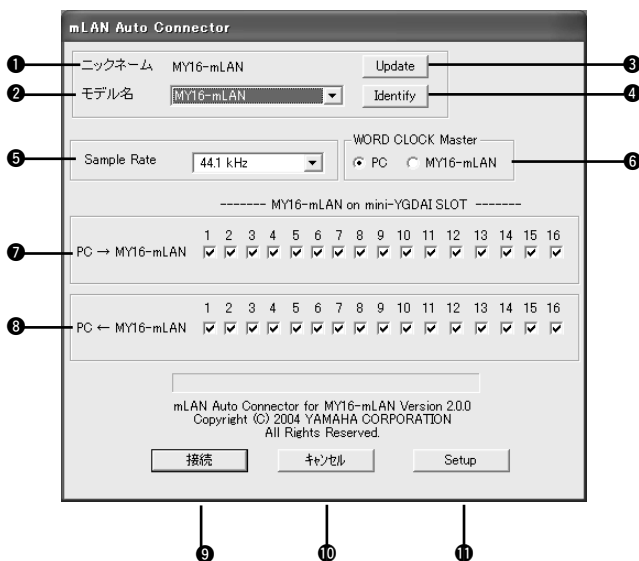
## ⑪「キャンセル」ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

## ⑫「Setup」ボタン

mLAN16E Control Panel画面が表示されます。この画面で「Wordclock Transition Speed」を設定します。

## MY16-mLANの場合



## ① ニックネーム

MY16-mLANのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

## ② モデル名

## ③ 「Update」ボタン

i88XやmLAN16Eと同じ機能です(20ページ)。

#### ④ 「Identify」 ボタン

このボタンをクリックすると、MY16-mLAN本体のACTIVEランプがしばらく点滅します。

#### ⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

#### ⑥ WORD CLOCK Master

コンピューターとMY16-mLANのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

#### ⑦ PC→MY16-mLAN

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からMY16-mLANに入力するオーディオチャンネルを設定します。

#### ⑧ PC←MY16-mLAN

MY16-mLANの出力から、コンピューターに入力するオーディオチャンネルを設定します。

#### ⑨ 「接続」 ボタン

#### ⑩ 「キャンセル」 ボタン

#### ⑪ 「Setup」 ボタン

i88XやmLAN16Eと同じ機能です(20ページ)。

### Wordclock Transition Speedの設定(mLAN Control Panel)

mLAN Auto Connectorまたは、Graphic Patchbayの「ノード情報」ウィンドウで[Setup]をクリックすると、mLAN Control Panelが開きます。この画面ではWordclock Transition Speedを設定できます。

Wordclock Transition Speed では、mLAN機器がmLANネットワーク上でスレープになっていて、そのワードクロックが変動する場合、もとの設定から新しい設定に緩やかに移るか、速く移るかを設定できます。

Slow:

通常はSlowを使用します。

Fast:

ワードクロックマスターとなる機器が、MTCなどのタイムコードに追従してワードクロックを変化させる設定の場合に使用します。

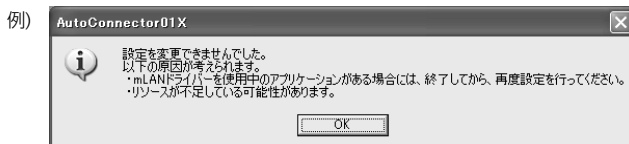
- 4** [接続]をクリックします。正しく接続されると、mLAN Auto Connectorが終了しmLANによる通信が開始されます。

#### NOTE

- 接続がうまくいかなかったときは、タスクバーのmLANアイコンを右クリックしてmLAN Auto Connectorを再起動し、もう一度[接続]をクリックしてください。コンピューターを再起動する必要はありません。

## mLAN Auto Connector/Driver Setupの設定が変更できない場合、mLAN Applications for YAMAHA/mLAN Tools 2.0のアンインストールができない場合の対処

mLAN Auto Connector、Driver Setupでの設定変更時やmLAN Applications for YAMAHA/mLAN Toolsのアンインストール時に以下のようなメッセージが表示されることがあります。



### ●mLANドライバーをアプリケーション(オーディオシーケンサーなど)で使用中的の場合

mLAN Auto Connector、Driver Setupでの設定変更、またはmLAN Applications for YAMAHA/mLAN Tools 2.0のアンインストールができません。アプリケーションを終了してから設定変更、アンインストールを行なってください。

### ●WDMをご使用で以下の両方の条件を満たす場合

アプリケーションを起動していない状態でもmLAN Auto Connector、Driver Setupでの設定変更、またはmLAN Applications for YAMAHA/mLAN Tools 2.0のアンインストールができないことがあります。

- ・ Auto ConnectorまたはGraphic Patchbayで、WDMを使用する設定にしている。
- ・ WindowsのシステムのオーディオデバイスでmLAN WDMドライバー (“mLAN Audio Out/In 01” )または“mLAN MIDI Out”を選択している。

上記の場合には、以下の手順でいったんmLAN WDMドライバーの選択をはずしてから、mLAN Auto Connector、Driver Setupでの設定変更、またはmLAN Applications for YAMAHA/mLAN Tools 2.0のアンインストールを行なってください。

#### NOTE

- ・ mLAN機器の電源を入れると、自動的にWindowsがmLAN Audio/MIDIを確保する場合があります。

- 1 [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[音声]の[音声再生]と[音声録音]で “mLAN Audio Out/In 01” 以外を選択する。
- 2 [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[オーディオ]の[音の再生]および[録音]で “mLAN Audio Out/ In 01” 以外を選択する。
- 3 [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[オーディオ]の[MIDI音楽の再生]で “mLAN MIDI OUT” ~“mLAN MIDI OUT(8)”以外を選択する。



## オーディオデータを扱う場合のヒント(Windows)

オーディオ機能を十分にお使いいただくために、以下の設定をおすすめします。これらの設定をすることで、再生音が途切れたりノイズが出たりする現象を低減できます。

- ・ **ハードディスクのDMAモード(高速に転送するモード)をオンにする**  
DMAモードの設定は、[コントロールパネル]→[システム]  
(→[ハードウェア])→[デバイスマネージャ]を開き、[ディスクドライブ]または[ハードディスクコントローラ]から行ないます。
- ・ **プロセッサのスケジュールを「バックグラウンドサービス優先」に設定する**  
[コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→「パフォーマンス」→[設定]→[詳細設定]を開き「プロセッサのスケジュール」で「バックグラウンドサービス優先」にチェックを入れます。
- ・ **視覚効果を「パフォーマンスを優先する」に設定する**  
[コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→「パフォーマンス」→[設定]→[視覚効果]を開き「パフォーマンスを優先する」にチェックを入れます。
- ・ **自動更新をオフにする**  
[コントロールパネル]→[システム]→[自動更新]を開き、「コンピュータを常に最新の状態に保つ」のチェックを外します。
- ・ **リモートアシスタンスをオフにする**  
[コントロールパネル]→[システム]→[リモート]を開き、「リモートアシスタンス」のチェックを外します。
- ・ **クラシックスタートメニューにする**  
タスクバーを右クリック→[プロパティ]→[スタートメニュー]を開き、[クラシックスタートメニュー]にチェックを入れます。
- ・ **メニューとヒントのアニメーション化をオフにする**  
[コントロールパネル]→[画面](→[デザイン])→[効果]を開き、  
[メニューとヒントをアニメーション化する]または[次のアニメーションの効果をメニューとヒントに使用する]のチェックを外します。

# プラグインエフェクトのインストール(i88Xユーザーの方のみ)

1 「VST」フォルダーをダブルクリックします。  
「Setup.exe」などのファイルが表示されます。

2 「Setup.exe」をダブルクリックします。  
インストールの準備が終わると、「ようこそ」という画面が表示されます。

3 [次へ]をクリックします。ユーザー情報の画面が開きますので、お名前、会社名、シリアル番号を入力してください。  
セットアップダイアログが表示されます。

## NOTE

- ・シリアル番号は、ユーザー登録カードに記載されておりますので、そちらをご参照ください。
- ・ここでの入力はインストールのためのものです。製品のユーザー登録は、別途行なってください(48ページ)。

4 [次へ]をクリックします。登録内容の確認画面が開きますので、正しいことを確認して[はい]をクリックします。

## NOTE

- ・登録情報が正しくない場合は、[いいえ]をクリックして手順3に戻ります。

5 インストールするプラグインの選択画面が表示されます。インストールしたいプラグインソフト名にチェックをつけ、[次へ]をクリックします。

6 インストールするプラグインソフトの確認画面が表示されますので、正しいことを確認して[はい]をクリックします。

## NOTE

- ・インストールするソフトウェアを変更したい場合は、[戻る]をクリックして、手順5に戻ります。

7 「インストール先の選択」画面で、VSTプラグインの取扱説明書(PDF)とセットアップをインストールするドライブ/フォルダーを決めます。自動的にインストール先が選択されるので、通常は変更しないことをおすすめします。

## NOTE

- ・ドライブ/フォルダーを変えたい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください。

8 [次へ]をクリックします。プラグインエフェクトモジュールのインストール先となるVstPluginsフォルダーを選択する画面が表示されます。お使いのホストアプリケーションに合わせて、インストール先にしたいフォルダーを選び、チェックをつけます。

## NOTE

- ・VSTプラグインソフトをSQ01で使用するためには、「Program Files¥YAMAHA¥VstPlugins」にチェックが入っている必要があります。
- ・インストール先にしたいフォルダーがリストにない場合は、「フォルダを追加」をクリックして、「フォルダの参照」ダイアログから選択してください。



9 [次へ]をクリックすると、インストールが開始されます。

10 インストールが完了すると、インストール完了の画面が表示されます。[完了]をクリックします。

## インストールした付属のVSTプラグインを、新たに別のホストアプリケーションで使う

付属のVSTプラグインソフト(Pitch Fixなどをインストール後、新たに別のVSTホストアプリケーションで使用する場合、ホストアプリケーションが指定するVstPluginsフォルダーに、Pitch FixなどのVSTプラグインをコピーして使用します。

- 1 [スタート]メニュー→[(すべての)プログラム]→[YAMAHA VST Plugins]→[(VSTプラグイン名)]→[セットアップ]を選択します。「ようこそ」という画面が表示されます。
- 2 [変更]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 3 VSTプラグインモジュールのコピー先を指定する画面が表示されます。ここで、VSTプラグインを使用したホストアプリケーションに対応したVstPluginsフォルダーにチェックをつけます。



### NOTE

- 詳しくは、ホストアプリケーションの取扱説明書をご参照ください。

- 4 [次へ]をクリックします。コピーが実行されます。



### NOTE

- コピーを中断するには、[キャンセル]をクリックします。

## プラグインエフェクトのアンインストール

- 1 [スタート]メニュー→[(すべての)プログラム]→[YAMAHA VST Plugins]→[(プラグインエフェクト名)]→[セットアップ]を選択します。「ようこそ」という画面が表示されます。
- 2 [削除]を選択し、[次へ]をクリックします。ファイル削除の確認画面が表示されます。
- 3 [OK]をクリックすると、アンインストールが実行されます。



### NOTE

- アンインストールを中止するには[キャンセル]をクリックします。



### NOTE

- Pentium IIIと一部のPentium 4のコンピューターで、Pitch FixとCubase SX2.0と使用した場合、コンピューターの動作が極端に遅くなる場合があります。そのような問題が起こる場合は、対策済バージョン(Pitch Fix Version 1.0.2以上)を以下のURLからダウンロードしてお使いください。  
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/>

# Mac OS 9ユーザーの方へ (i88X、mLAN16Eのみ)

## NOTE

- ・ i88X、mLAN16EのみMac OS 9に対応しています。MY16-mLANはMac OS 9に対応していません。Mac OS Xについては、44ページをご参照ください。

## CD-ROMの内容

Macintosh用のソフトウェアが2枚のCD-ROM(mLAN16EにはTOOLS for i88X/mLAN16Eのみ)に納められています。TOOLS for i88X/mLAN16Eからインストールをはじめます。

### ●TOOLS for i88X/mLAN16E

フォルダー名	ソフト名	説明
mLAN_	mLAN Applications for YAMAHA mLAN Tools	mLAN機器とコンピュータをmLAN接続して使用するのに必要なmLANドライバーやアプリケーションソフトウェアです。 ・インストール手順は32ページをご参照ください。 一度のインストール作業で、mLANに必要なすべてのソフトウェアがインストールされます。インストールされるソフトウェアには、mLANネットワークのオーディオ/MIDIのコネクションを、コンピュータ上で設定するためアプリケーション「mLAN Auto Connector」や「mLAN Graphic Patchbay」も含まれます。
OMS_	Open Music System (OMS) 2.3.8 <sup>2</sup>	mLAN機器とコンピュータをmLAN接続してMIDIデータ(リモートコントロール/Studio Managerデータ)を送受信するのに必要なソフトウェアです。 ・インストール手順は33ページをご参照ください。
	OMS Setup for YAMAHA(フォルダー)	mLAN機器用のOMSセットアップファイルが入っています(41ページ)。

### ●Plug-in Effect(i88Xにのみ付属)

- ・ VST/Audio Units規格に対応したプラグインソフトです。
- ・ インストール先のディスク/YAMAHA/Plug-in Effect/各ソフトウェアのフォルダーにPDFマニュアルが用意されています。
- ・ プラグインエフェクトのインストール手順は43ページをご参照ください。

フォルダー名		ソフト名	内容
Mac OS 9 *3	VST_	O1X Channel Module*1	YAMAHA Digital Mixing Studio O1Xの各チャンネルに搭載されているEQ(イコライザー)とダイナミクス効果をコンピューターのCPUパワーを使って実現するソフトウェアです。YAMAHA Digital Mixerと同等の機能(ダイナミクス、4-バンドEQ)をソフトウェアエフェクトとして使用できます。また、O1Xの設定をインポートできるので、O1Xで作成したソングを再現することができます。
		Pitch Fix*1	ボーカルのピッチ(音の高さ)編集を行なうためのソフトウェアです。ボーカルのピッチを修正するだけでなく、声質を変更することもできます。Pitch FixをホストアプリケーションからのMIDI情報でコントロールすることも可能です。ホストアプリケーション上での設定方法についても、Pitch Fix取扱説明書PDFをご参照ください。
		Vocal Rack*1	ボーカルレコーディング用のマルチエフェクターです。ハイパスフィルター、コンプレッサー、3バンドイコライザーなどの様々なエフェクトが用意されています。
		Final Master*1	マスタリング用のマルチエフェクターです。コンプレッサーとリミッター、ソフトクリップ機能が用意されており、3バンドの帯域分割処理が可能です。

\*1 これらのソフトウェアには電子マニュアルが付いています。

\*2 このソフトウェアはヤマハではサポートしません。

### \*3 Mac OS X 対応について

OS X 対応のmLAN ソフトウェアについては、下記URL にて公開されております。

- ・ mLAN ドライバー (OS X10.3.3 以降に内蔵)  
<<http://www.apple.com/jp/ftp-info/>>
- ・ mLAN Tools 、 Studio Manager for O1X  
<<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/>>

また、Mac OS X フォルダに収録されているソフトウェアは、Mac OS X にて動作するVST/Audio Units 対応のO1X Channel Module 、 Pitch Fix 、 Vocal Rack 、 Final Masterです。

mLAN機器をiBookやPowerBookなどのノート型MacintoshとmLAN接続してご使用になる場合には、Macintosh起動時に、あらかじめmLAN機器とMacintoshをmLANケーブルで接続し、mLAN機器の電源を入れておく必要があります。

# i88X/mLAN16Eソフトウェアの動作環境

付属のソフトウェアをお使いいただくには、以下のコンピューター環境が必要です。

## NOTE

- ・ お使いのOSによっては、下記の仕様以上の条件を満たす必要があります。
- ・ 各社DAW (Digital Audio Workstation)の動作環境については、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

## □ i88X/mLAN16E(mLAN Tools 2.0/mLAN Applications for YAMAHA)の動作環境を含む

この動作環境は、mLAN Tools 2.0/mLAN Applications for YAMAHA、オーディオシーケンサー、プラグインエフェクトを含んだ総合的なものです。

OS	: Mac OS 9.2 (Mac OS XおよびClassic環境は含まず)
コンピューター	: S400(転送スピード400Mbps)のFireWire端子を搭載したもの(*1)
ハードディスク	: 250MB (i88X)、50MB (mLAN16E)

### ・推奨動作環境(\*2)

#### ○コンピューターとmLAN機器を1対1で接続する場合

コンピューター	: G4/G3 900MHz以上
メモリー	: 512MB以上(仮想メモリーは「切」にしてください)

#### ○コンピューターと3台のmLAN機器を接続する場合

コンピューター	: G4 1.25GHz Single / 1GHz Dual以上
メモリー	: 512MB以上(仮想メモリーは「切」にしてください)

### ・最低動作環境(\*2)

コンピューター	: G4 Dual 450MHzまたはG4/G3 Single 700MHz以上
メモリー	: 320MB以上(仮想メモリーは「切」にしてください)

\*1 IEEE 1394 (FireWire) 端子またはi.LINK端子を搭載したコンピューターが必要です。搭載していない場合は、PCまたはPCIカードなどを別途ご用意ください。詳細な動作環境や推奨のPC、PCIカードについては

<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm>  
をご覧ください。

\*2 前記動作環境は標準的なシーケンソソフトウェアにて、下記のオーディオ/MIDIを再生しながら、同梱のソフトウェアエフェクトなどを使用した場合です。お使いのシーケンソソフトウェアにより異なる場合があります。

<推奨動作環境(コンピューターとmLAN機器を1対1で接続する場合)>

Fs=44.1kHz/24bit
Audio Driver 18In/180Out(i88X)、16In/80Out(mLAN16E)
MIDI Driver 1In/10Out(i88X)、3In/30Out(mLAN16E)
MIDI x16/Audio x12トラック再生
Audio x2トラック録音
Send Plug-in Soft Effect 2系統
Insert Plug-in Soft Effect 10系統
Plug-in Soft Synthesizer 2系統
Latency 5msec以下

<推奨動作環境(コンピューターと3台のmLAN機器を接続する場合)>

Fs=44.1kHz/24bit
Audio Driver 32In/320Out (合計)
MIDI Driver 4In/50Out (合計)
MIDI x16/Audio x8トラック再生
Audio x2トラック録音
Send Plug-in Soft Effect 2系統
Insert Plug-in Soft Effect 10系統
Plug-in Soft Synthesizer 2系統
Latency 5msec以下

<最低動作環境>

Fs=44.1kHz/16bit
Audio Driver 8In/20Out(i88X)、2In/20Out(mLAN16E)
MIDI Driver 1In/10Out(i88X)、2In/20Out(mLAN16E)
MIDI x16/Audio x12トラック再生
Send Plug-in Soft Effect 2系統
Insert Plug-in Soft Effect 6系統
Plug-in Soft Synthesizer なし
Latency 50msec程度

**NOTE**

- ・ 使用できるPCI/PCインターフェースカードの数は2つまでです。ただし、同時に使用できるインターフェースカードは1枚だけです。コンピューターに内蔵のIEEE 1394インターフェースを使用している場合は、IEEE 1394 PCI/PCインターフェースカードは1枚のみ使用できます。
- ・ ノートPCをご使用の場合、ノートPCの制約により、内蔵IEEE 1394が使用できないことがあります。このようなときは、PCカードをご使用ください。

 **Plug-in Effect(i88Xのみに付属)**

OS : Mac OS 8.6~9.2  
Mac OS X 10.2~10.3

**NOTE**

- ・ PowerBookをバッテリーでお使いの場合は、「省エネルギー設定」コントロールパネルを開き、「プロセッサークイックリング」をオフにしてください。

# ソフトウェアのインストール

ここで説明のないソフトウェアのインストールについては、「CD-ROMの内容」(28ページ)をご参照ください。

## mLANソフトウェア/OMSのインストール

mLAN Tools 2.0は、mLAN機器とコンピューターを接続するためのドライバーなどを含むソフトウェアです。

mLAN Applications for YAMAHAは、コンピューターとmLAN機器の間でオーディオ/MIDI信号をmLANケーブルを通じてやりとりするためのソフトウェアです。このソフトウェアで、i88X、mLAN16E、O1XをコンピューターにmLAN接続することができます。

次の手順でインストールします。

### NOTE

- ・ エラーメッセージが表示されたときは45ページをご参照ください。
- ・ アンインストールについては35ページをご参照ください。

## インストール前の準備

**1** コンピューターを起動します。



mLANを使用する際は、コンピューターの省電力(スリープ)モードや省電力モードに入る設定は使用しないでください。仮想メモリーを使用しているときは「切」に設定して再起動してください。

### NOTE

- ・ データレート規格がS200(お使いの機器のリアパネルまたは取扱説明書の「仕様」参照)のmLAN機器をお使いの場合は、あらかじめ古いmLAN Toolsをアンインストールしておいてください(ヤマハのmLAN製品をご使用の場合は、ご使用の機器のインストールガイドをご参照ください。その他のmLAN製品をご使用の場合は、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご参照ください)。

**2** アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

**3** mLAN機器のMIDI IN/OUTに接続されているMIDI機器の接続ケーブルをすべて外しておきます。

**4** mLAN機器をコンピューターのIEEE 1394(FireWire/i.LINK)端子にハブを使わず直接つなぎ、mLAN機器以外のIEEE 1394機器は、コンピューターから外します。

**5** 付属のCD-ROM (TOOLS for i88X/mLAN16E)をCD-ROMドライブに挿入します。



## OMSのインストール

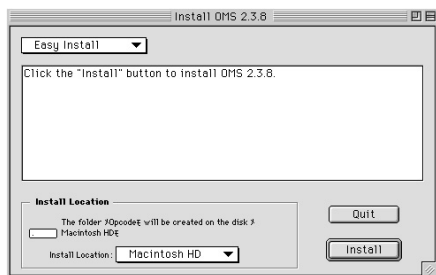
### NOTE

- ・ コンピューターにすでにOMS2.3.3JまたはOMS2.3.8がインストールされている場合は再インストールする必要はありません。

6 「OMS」フォルダーをダブルクリックします。  
「Install OMS2.3.8」(インストーラー)が表示されます。

7 「Install OMS2.3.8」をダブルクリックします。  
OMSのセットアップダイアログが表示されます。

8 [Easy Install](簡易インストール)では、OMSの簡易インストールセットをインストールします。通常はこちらを選びますが、必要に応じて、[Custom Install]を選択します。



9 「Install Location」(インストール場所)欄にインストール先(起動ディスク)が自動的に表示されています。インストール先を変更する場合は、プルダウンメニューからインストール先を選択します。

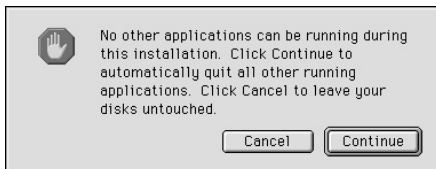
### NOTE

- ・ 通常はインストール先を変更する必要はありません。

10 [Install](インストール)をクリックすると、「他のアプリケーションの動作中は、インストールできません。[Continue]をクリックすると、すべてのアプリケーションが自動的に終了します」という英語のメッセージが表示されます。[Continue]をクリックします。

### NOTE

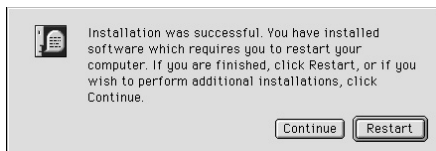
- ・ インストールを中止したい場合は、[Cancel]をクリックします。



### NOTE

- ・ 「Do you have an Opcode Studio 4, Studio 5, or Studio "x" series MIDI interface?」(Opcode Studio 4, Studio 5, Studio "x" series MIDI interfaceを使用していますか?)と表示された場合は、環境に応じて[YES]または[NO]を選択します。

11 インストールが終わると、「インストールが完了しました」という英語のメッセージが表示されますので[Restart](再起動)をクリックします。

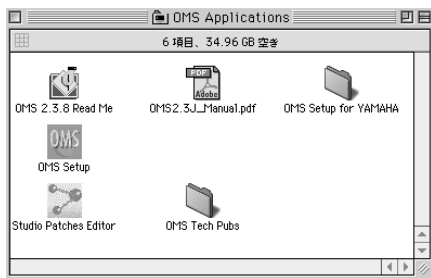


**NOTE**

インストール終了時に、「アプリケーションを終了することができませんでした。」という意味のメッセージが表示されることがあります。このようなメッセージが表示された場合は、ファイルメニューから[Quit] (終了) を選択してインストーラーを終了し、コンピューターを再起動してください。再起動後、コンピューター上(デフォルトでは起動ディスク上)に「Opcode」 / 「OMS Applications」フォルダーが追加されます。

**12** CD-ROM内の「OMS2.3J\_Manual.pdf」をドラッグ&ドロップで、「OMSアプリケーション」フォルダーにコピーします。操作についてはこの「OMS2.3J\_Manual.pdf」をご参照ください。

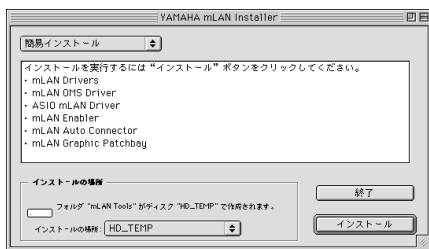
**13** CD-ROMの「OMS Setup for YAMAHA」フォルダーを「OMSアプリケーション」フォルダーにドラッグ&ドロップでコピーします。この「OMS Setup for YAMAHA」フォルダーには、i88X/mLAN16E用のOMSセットアップファイルが入っています。テンプレートとしてご使用ください(41ページ)。

**mLANソフトウェアのインストール**

**14** 「mLAN」フォルダーを開き、「Yamaha mLAN Installer」アイコンをダブルクリックします。mLANソフトウェアのインストール開始画面が表示されます。自動的にインストールの場所が選択されています。インストール先を変えたい場合は、[インストールの場所]のメニューをクリックしてインストール先を選択します。

**NOTE**

通常はインストール先を変更する必要はありません。



**15** [簡易インストール]が選ばれているのを確認して、[インストール]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[続ける]をクリックします。

**16** 「システムフォルダに“OMS Folder”が見つからない」という内容メッセージが表示された場合は、インストール終了後に、インストール先の「mLAN Tools」フォルダーの「Into OMS Folder」にある「mLAN OMS Driver」を、システムフォルダの「OMS Folder」にコピーしてください。

**17** ASIO Driversフォルダーを検索する旨のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。検索結果が表示されます。

**18** ASIO mLAN Driverのインストール先を選択して[OK]をクリックします。

**NOTE**

・「ASIO Drivers」フォルダーが見つからない」という内容メッセージが表示された場合は、インストール終了後に、インストール先の「mLAN Tools」フォルダーの「Into ASIO Drivers」にある「ASIO mLAN」を、お使いのアプリケーションの「ASIO Drivers」フォルダーにコピーしてください。

**19** mLAN機器の電源を入れます。

**20** インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。  
[再起動]をクリックします。

## インストール後の確認

以下のファイルがインストールされています。

### 起動ディスクのコントロールパネル

mLAN Driver Setup (36ページ)

**NOTE**

・ mLAN Driver Setupを使って、mLANによるデータの送受信が正常に行なわれているかを確認することができます。

### 起動ディスクの機能拡張

mLAN Driver  
mLAN Driver Plugs  
mLAN Expert  
mLAN Family  
mLAN Transporter Family

### インストール先のフォルダー

mLAN Toolsフォルダー  
Opcode/OMS Applications

### システムフォルダー

コントロールパネル/mLAN Driver Setup  
OMS Folder/mLAN OMS Driver  
初期設定/mLAN HALs/O1XTransporter.hal  
初期設定/mLAN HALs/i88XTransporter.hal  
初期設定/mLAN HALs/  
mLAN16ETransporter.hal  
初期設定/mLAN Prefs/mLAN Control Panel  
Prefs  
初期設定/mLAN Prefs/oui.tbl

\* アンインストールする場合は前記のファイルとフォルダーを削除してください。OMSに関するファイルなど、インストール前からあったデータを削除しないようご注意ください。

## インストール後の設定変更

インストール後のmLANに関する設定変更は、コントロールパネルのmLAN Driver Setupを起動して行ないます。

### mLAN Driver Setup

mLAN通信の設定や送受信の確認をするための画面です。設定を変更する場合は、mLANを使用しているアプリケーション(DAWなど)を終了してください。

#### NOTE

- ・ ワードロック(サンプルレート)、使用するチャンネル数を変更するには、mLAN ToolsフォルダーにあるmLAN Auto Connectorを起動します。



#### ① FireWire Card ID

設定できる内容はWindowsの「1394 Adapter Card ID」と同じです(15ページ)。

#### ② Latency

基本となるレイテンシー(命令を実行してから、実際に処理されるまでの遅延時間)を設定します。使用する環境によって選択してください。

### mLAN使用時のレイテンシーについて

お使いのパソコンの性能(CPUの速度やシステムメモリのサイズ)により、オーディオシーケンサーなどのアプリケーションを使用する際に、ノイズが発生するなど、オーディオデータを正しく録音/再生できない場合があります。このような場合、レイテンシー(遅延時間)を調節することで、問題を解決できます。

- ・ レイテンシーの値が小さい.....遅延時間が短く、リアルタイムプレイに適しています
- ・ レイテンシーの値が大きい.....遅延時間が長くなる分、プラグインエフェクトや扱うオーディオチャンネル数を多くできます

#### ●mLANのレイテンシー

オーディオのレイテンシー

オーディオのレイテンシーは、mLAN Driver Setupで選択する基本となるレイテンシーと、ASIO mLAN Control Panelで選択するPreferred Buffer Sizeの2つから決定されます。オーディオのレイテンシーの値は、ASIO mLAN Control Panelに表示されます(37ページ)。

#### MIDIのレイテンシー

mLANドライバーのバージョンによっては、MIDIのレイテンシーが変わることがあります。

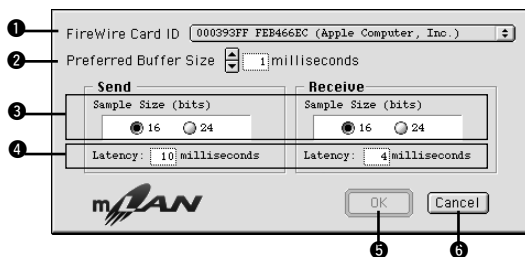
お使いのmLANドライバーのバージョンでのMIDIレイテンシーについては、インストール先の「mLAN Tools」→「YAMAHA」→「Manual」フォルダーの「MIDI\_Latency.txt」をご参照ください。

### ● ASIO mLAN Control Panel

mLAN ASIOドライバーの場合、必要に応じて、アプリケーションのドライバー設定（お使いのオーディオインターフェースによってメニュー構成が異なります）内でASIO mLANコントロールパネルを開いて、Preferred Buffer Sizeを設定します。



・mLAN ASIOドライバーのPreferred Buffer Sizeの初期設定は、最小値になっています。



#### ① FireWire Card ID

設定できる内容はWindowsの「1394 Adapter Card ID」と同じです(15ページ)。

#### ④ Latency

オーディオのレイテンシーの送信/受信の値を表示します。

レイテンシーの値は、mLAN Driver Setupで選択する基本となるレイテンシーの値と、Preferred Buffer Size(②)で選択するバッファサイズの2つから決定されます。

#### ② Preferred Buffer Size

#### ③ Sample Size

#### ⑤ OK

#### ⑥ Cancel

設定できる内容はWindowsの「ASIO mLAN Control Panel」と同じです(16ページ)。

#### ③ Status

#### ④ Set

#### ⑤ Revert

設定できる内容は、Windowsと同じです(17ページ)。

# コンピューターとmLAN機器をmLAN接続する

ここでは、mLAN Auto Connectorを使って、コンピューターとmLAN機器を1対1でmLAN接続する手順について説明します。

mLAN Auto Connectorを使うと、ワードクロックやオーディオ出力チャンネル数を選ぶだけで簡単な接続が可能です。

コンピューターと複数のmLAN機器を接続する場合は、mLAN Graphic Patchbayを使用します。mLAN Graphic Patchbayについての詳細は、mLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルをご参照ください。

- 以下の場合に、ノイズが発生することがあります。これらの操作を行なう前に、各機器の出力を下げてください。
- コンピューターやmLAN機器の電源をオン/オフする場合
- IEEE1394(mLAN)ケーブルを抜き差しする場合
- mLAN Auto Connectorを使ってmLAN接続する場合
- mLAN Auto Connector またはmLAN Graphic Patchbayでワードクロックマスター/スレーブを変更する場合
- mLAN Managerでオン/オフを選択する場合 (Windows)
- OSの起動時/終了時
- mLANソフトウェアのインストール/アンインストール時

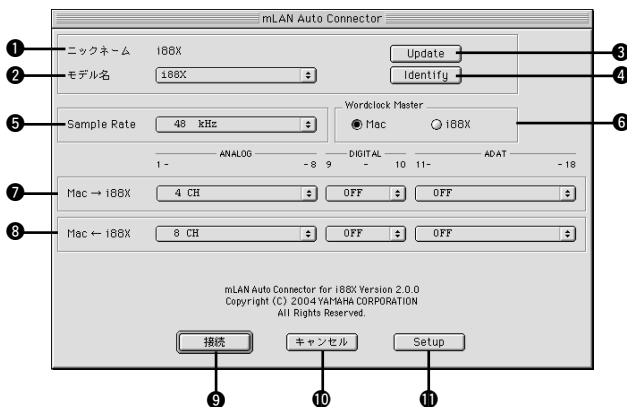
## NOTE

- Graphic Patchbayで設定した後にAuto Connectorを使うと、Graphic Patchbayでの接続はキャンセルされます。

- mLAN Graphic Patchbayでも、コンピューターとmLAN機器を1対1で接続できます。
- mLAN Auto Connectorの画面は、接続するmLAN機器によって異なります。

- コンピューターとmLAN機器をIEEE1394ケーブルで接続します。
- 「mLAN Tools」フォルダーを開き、「mLAN Auto Connector」アイコンをクリックします。
- mLAN Auto Connectorが起動します。mLAN Auto Connector上でワードクロックの設定やオーディオチャンネル数などの設定を行ない(下記参照)、「接続」ボタンをクリックします。コンピューターとmLAN機器をmLAN接続します。

## i88Xの場合



- ニックネーム**  
i88Xのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

- モデル名**  
複数のmLAN機器とコンピューターをIEEE1394ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。

mLAN16Eの場合、mLAN16Eを取り付けた機器の名前を選択します。

### ③「Update」ボタン

mLANネットワークに接続されたmLAN機器の情報を更新します。Auto Connectorを起動している状態で、新たにmLAN機器を接続した場合などにお使いください。

### ④「Identify」ボタン

このボタンをクリックすると、i88X本体のACTIVEランプがしばらく点滅します。

### ⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

### ⑥ Wordclock Master

コンピューターとi88Xのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

### ⑦ Mac→i88X

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からi88Xに入力するオーディオチャンネル数を設定します。i88Xに入力されたオーディオは、それぞれi88X本体のOUTPUT 1～8端子(ANALOG)、DIGITAL STEREO COAXIAL/OPTICAL OUT端子(DIGITAL)、ADAT OUT端子(ADAT)から出力されます。

### ⑧ Mac←i88X

i88Xのオーディオ出力(INPUT 1～8端子(ANALOG)、DIGITAL STEREO COAXIAL/OPTICAL IN端子(DIGITAL)、ADAT IN端子(ADAT)から入力されたオーディオ)から、コンピューターに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

### ⑨「接続」ボタン

i88XとコンピューターをmLAN接続します。

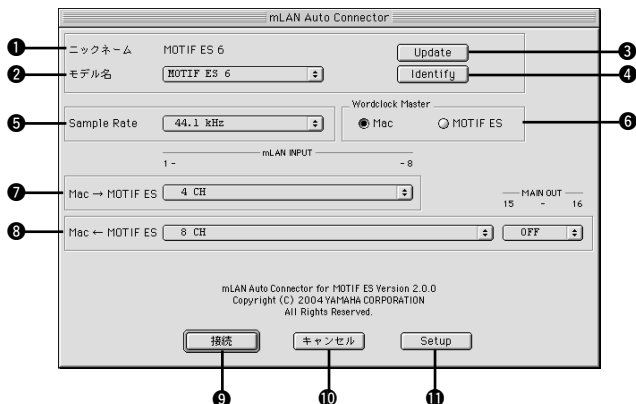
### ⑩「キャンセル」ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

### ⑪「Setup」ボタン

i88X Control Panel画面が表示されます。この画面で「Wordclock Transition Speed」を設定します。

## mLAN16E (MOTIF ES)の場合



### ① ニックネーム

mLAN16Eのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbay PDFマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

### ② モデル名

複数のmLAN機器とコンピューターをIEEE1394ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。

### ③ [Update] ボタン

i88Xの[Update]ボタンと同じ機能です。

### ④ [Identify] ボタン

このボタンをクリックすると、mLAN16E本体のACTIVEランプがしばらく点滅します。

### ⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

### ⑥ Wordclock Master

コンピューターとmLAN16Eのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

### ⑦ Mac→MOTIF ES

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からmLAN16Eに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

### ⑧ Mac←MOTIF ES

mLAN16Eの出力から、コンピューターに入力するオーディオチャンネル数を設定します。



- ・ mLAN16E対応機器によって、転送できるオーディオチャンネル、MIDIポート数は異なります。
- ・ MOTIF ESにmLAN16Eを取り付けた場合のオーディオ/MIDI接続についての詳細は、mLAN16E取扱説明書の「システム構成例」をご参照ください。

### ⑨ [接続] ボタン

mLAN16EとコンピューターをmLAN接続します。

### ⑩ [キャンセル] ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

### ⑪ [Setup] ボタン

mLAN16E Control Panel画面が表示されます。この画面で「Wordclock Transition Speed」を設定します。



## Wordclock Transition Speedの 設定(mLAN Control Panel)

mLAN Auto Connectorまたは、Graphic Patchbayの「ノード情報」ウィンドウで[Setup]をクリックすると、mLAN Control Panelが開きます。この画面ではWordclock Transition Speedを設定できます。

Wordclock Transition Speed では、mLAN機器がmLANネットワーク上でスレーブになっていて、そのワードクロックが変動する場合、もとの設定から新しい設定に緩やかに移るか、速く移るかを設定できます。

Slow:

通常はSlowを使用します。

Fast:

ワードクロックマスターとなる機器が、MTCなどのタイムコードに追従してワードクロックを変化させる設定の場合に使用します。

- 4** [接続]をクリックします。正しく接続されると、mLAN Auto Connectorが終了しmLANによる通信が開始されます。

### NOTE

接続がうまくいかなかったときは、mLAN Auto Connectorを再起動し、もう一度[接続]をクリックしてください。コンピューターを再起動する必要はありません。

## OMSのセットアップ

### NOTE

お使いのMacintoshに1394インターフェイスカードを追加して、mLANを使用する場合には、インストールCDに付属のOMS Setup fileを使わずにOMS Setupで新たにStudio Setupを作り直すしてください。詳しくはOMSのマニュアルをご参照ください。

- 1** 「OMS」フォルダー→「OMS Setup for YAMAHA」フォルダーの中にある、「i88X-mLAN」、「MOTIF-ES-mLAN」、「mLAN Generic 16 ports」スタジオセットアップファイルをハードディスクにコピーします。

- 2** Auto Connectorを使って1台のi88XまたはmLAN16E(MOTIF ES)を接続する場合は、「i88X-mLAN」または「MOTIF ES-mLAN」をダブルクリックします。Graphic Patchbayを使って複数のmLAN機器を接続する場合や、Auto Connectorを使って1台のmLAN16E(MOTIF ES以外)を接続する場合は、「mLAN Generic 16 Ports」をダブルクリックします。OMS Setupが起動します。

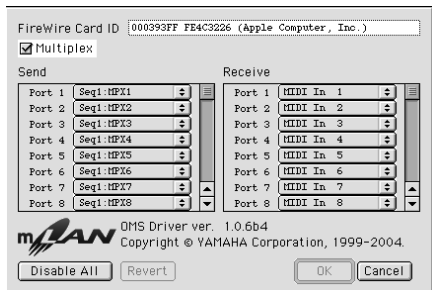
- 3** OMS Setupが起動すると、先ほど立ち上げたスタジオセットアップファイルが開きます。タイトルバーに表示されたファイル名の先頭に「う(◇)」が表示されていることを確認してください。「う(◇)」が表示されない場合には、「File(ファイル)」メニュー→「Make Current(セットアップを有効にする)」を選択します。「う(◇)」の表示を確認後、保存します。



これで、OMSのセットアップは完了です。アプリケーションを使用する際は、さらにOMSポートの設定が必要です。お使いのアプリケーションの取扱説明書をご参照ください。

## NOTE

mLANデバイスのアイコンをダブルクリックするか、mLANデバイスを選択して「スタジオ/Studio」メニューから「MIDI Device Info...」を実行すると、Device Infoダイアログボックスが表示されます。i88X、mLAN16Eでは、アプリケーション(mLAN Auto Connectorなど)で自動的に設定されていますので、変更しないでください。設定を変更してしまった場合は、以下の図のとおりを設定しなおしてください。



スタジオセットアップファイルを読み込んだときの各MIDIポートの設定名(デバイス名)は以下のとおりです。お使いのアプリケーションで適切なデバイス(ポート)を選んでください。

## i88X(Auto Connector)の各ポートの機能

MIDIポート	デバイス名	用途
1	MIDI	i88XのMIDI端子(MIDI/mLAN MIDI変換)

## MOTIF-ES(Auto Connector)の各ポートの機能

MIDIポート	デバイス名	用途
1	TG	音源のコントロール
2	PLG	Plug-inパートのコントロール
3	Remote B	DAWやエディターのコントロール
4	Remote A	DAWやエディターのコントロール

## NOTE

MOTIF ESのMIDIポートには各機能を割り当てるができます。ここでは、一般的な使い方をした場合のデバイス名を設定してあります。

## mLAN Graphic Patchbay、mLAN16E(MOTIF ES以外)の各ポートの機能

MIDIポート	デバイス名	用途
1	Port 1	mLAN機器によって異なります。お使いの機器の取扱説明書をご参照ください。
2	Port 2	
...	...	
16	Port 16	

## NOTE

「mLAN Generic 16 ports」スタジオセットアップのポート番号は、Graphic Patchbayの「端子名」に表示される番号と対応しています。Graphic Patchbayについては、Graphic Patchbayオンラインマニュアルをご参照ください。

前記のスタジオセットアップを行なった場合、YAMAHA製のmLAN(MIDI)機器のみが認識されず、それ以外の楽器をUSB接続する場合や、すでにOMSを使用していて新たにmLAN(MIDI)機器をシステムに加える場合などは、独自のスタジオセットアップを作成する必要があります。詳しくは、付属の「OMS2.3J\_Manual.pdf」をご参照ください。

お使いのMacintoshやOSのバージョンによっては、左記の手順で操作しても同梱のスタジオセットアップファイルが動作しない場合があります。(セットアップが有効になっても、MIDIの送受信はできません。)この場合、mLAN機器とMacintoshを接続した後、以下の手順でセットアップファイルを作りなおしてください。

- 1 OMS Setupを起動し、「File」メニューより「New Studio Setup」を選びます。
- 2 OMSドライバー検索ダイアログが表示されますので、[Modem]および[Printer]のチェックを必ずはずして、[検索]ボタンをクリックし、デバイスの検索を行います。デバイスの検索に成功すると、OMS Driver SetupダイアログでmLAN-01というデバイスが表示されます。
- 3 [OK]ボタンをクリックして、さらにポートを検索します。i88X、mLAN16Eの場合、Port1、Port2...などという名称になります。各ポートのチェックボックスをチェックしたのち、[OK]ボタンをクリックし、保存します。

# VSTプラグインエフェクトのインストール(i88Xユーザーの方のみ)

1 「Mac OS 9」フォルダーをダブルクリックします。  
「VST」フォルダーが表示されます。

2 「VST」フォルダーをダブルクリックします。  
「VST Plugin Installer」ファイル(インストーラー)が表示されます。

3 「VST Plugin Installer」をダブルクリックします。  
インストールするプラグインの選択画面が表示されます。インストールしたいプラグインソフト名にチェックをつけます。「インストールの場所」で、プラグインエフェクトの取扱説明書(PDF)をインストールするハードディスクを決めます。自動的にインストール先が選択されるので、通常は変更しないことをおすすめします。



4 [インストール]をクリックします。ユーザー情報の画面が開きますので、お名前、会社名、シリアル番号を入力してください。

## NOTE

- ・シリアル番号は、ユーザー登録カードに記載されておりますので、そちらをご参照ください。
- ・ここでの入力はインストールのためのものです。製品のユーザー登録は、別途行なってください(48ページ)。

5 [続ける]をクリックします。プラグインエフェクトモジュールのコピー先を指定する画面が表示されます。

ここで、プラグインエフェクトを使用したいホストアプリケーションに対応したVstPluginsフォルダーを1つ選びます。

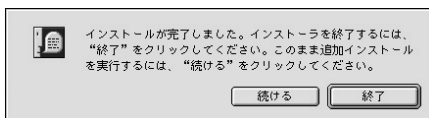


## NOTE

- ・VstPluginsフォルダーが1つしか存在しない場合は、「フォルダの選択」画面は表示されません。このまま手順7に進みます。
- ・VstPluginsフォルダーが1つもない場合は、表示されるダイアログで、どのフォルダーにインストールするか指定してください。

6 [OK]をクリックすると、インストールが開始されます。

7 インストールが完了すると、インストール完了の画面が表示されます。



インストールを終了する場合は[終了]をクリックします。

手順5で選択したVstPluginsフォルダー以外の場所にモジュールをコピーしたい場合は、[続ける]をクリックして、手順3から同じ操作を繰り返します。

# Mac OS Xユーザーの方へ

付属のCD-ROMには、Mac OS Xに対応したmLANソフトウェアは含まれていません。  
Mac OS Xでi88X、mLAN16E、MY16-mLANをお使いになる場合は、下記URLからそれぞれのソフトウェアをダウンロードしてください。

- ・ mLAN ドライバー (OS X10.3.3 以降に内蔵)

<<http://www.apple.com/jp/ftp-info/>>

- ・ mLAN Tools

<<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/>>

NOTE



## i88Xをお使いの方へ

- ・ CD-ROM(Plug-in Effect)のMac OS X フォルダに収録されているソフトウェアは、Mac OS Xにて動作するVST/Audio Units 対応の01X Channel Module、Pitch Fix、Vocal Rack、Final Masterです。

# メッセージ一覧

メッセージ	ページ
mLANネットワーク上に**が見つかりませんでした。 **の電源がオンになっているか、**とコンピューターがmLANケーブルで正しく接続されているか確認してから、mLAN Auto Connectorを再起動してください。	19、 38
設定を変更できませんでした。以下の原因が考えられます。 (1)mLANドライバーを使用中のアプリケーションがある場合にはそれらを終了してから、再度設定を行なってください。 (2)リソースが不足している可能性があります。	24
アプリケーション“mLAN Start”が起動していないため、mLAN設定が初期化できませんでした。“mLAN Manager”のメニューから“ON”を選択してください。	14
**のmLANオーディオ出力端子を、コンピューターのmLANオーディオ入力端子に接続できませんでした。	14、 19、 38
**のmLAN MIDI出力端子を、コンピューターのmLAN MIDI入力端子に接続できませんでした。	14、 19、 38
コンピューターのmLAN MIDI出力端子を、**のmLAN MIDI入力端子に接続できませんでした。	14、 19、 38
コンピューターのmLANワードクロック出力端子を、**のmLANワードクロック入力端子に接続できませんでした。	14、 19、 38
**のmLANワードクロック出力端子を、コンピューターのmLANワードクロック入力端子に接続できませんでした。	14、 19、 38
新しい1394アダプタカードが見つかりました。 新しいカードを使用する場合は、コンピューターを再起動してください。	
リソースメモリが足りませんでした。mLAN Stopを実行後、mLANStartを実行してください。もし、それでもだめな場合はコンピューターを再起動してください。	14
1394アダプタカードが見つかりませんでした。カードを確認し、もう1度 mLANを起動してください。	14
起動できないアプリケーションがありました。当該アプリケーションからのメッセージに従ってください。メッセージが無い場合は、mLANStartを再度起動するか、PCを再起動してください。	14
応答のないアプリケーションがありました。mLANStartを再度起動するか、PCを再起動してください。	14
mLAN Busドライバーのロードに失敗しました。 ハードウェア・ウィザードが未処理の場合は、処理の完了後、mLANStartを起動してください。それ以外の場合は、PCを再起動してください。	14
停止できないアプリケーションがありました。mLANおよびDAWのアプリケーションをすべて終了させてからmLANStopを実行してください。	14

**NOTE**



\*\*には、お使いのmLAN機器名が表示されます。

# トラブルシューティング

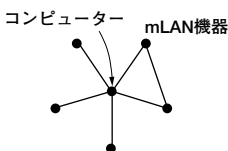
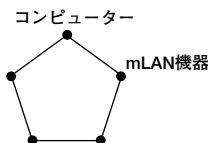
## 故障かな?と思ったら

「音が出ない」「音がおかしい」などといった場合は、まず以下の項目をチェックしてください。それでも直らないときは、お買い上げのお店、または巻末のヤマハデジタルインフォメーションセンター、ヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

### ■ mLAN通信できない

- ・ ドライバーをインストールしましたか? ..... 9、32ページ
- ・ mLANケーブルは正しく接続されていますか? mLAN ケーブルの接続を確認してください。一度mLAN ケーブルを抜いて、再度挿入してみてください。
- ・ (Windows) mLANがオンになっていますか? タスクバー→mLAN Manager (  ) を右クリックして、ON(mLAN 開始)を選択してください。 ..... 14ページ
- ・ (Windows) 新しいIEEE 1394カードを追加したときは、タスクバー→mLAN Manager (  ) を右クリックして、ON(mLAN 開始)を選択してください。 ..... 14ページ
- ・ 本機のACTIVE ランプは正常(青色点灯)ですか? 消えている場合は以下の確認をしてください。  
- mLAN Driver SetupでStatusは青くなっていますか? 青以外の場合はmLAN機器を再起動し、mLAN Auto Connector/Graphic Patchbayで再接続してください。  
..... 19、38ページ、Graphic Patchbayオンラインマニュアルの「mLAN接続設定」参照
- ・ mLAN Auto Connector/Graphic Patchbayの接続は確立していますか? 再接続してみてください。  
..... 19、38ページ、Graphic Patchbayオンラインマニュアルの「mLAN接続設定」参照
- ・ 機器を交換していませんか? たとえ同じ機種でもハード自体が異なると、mLAN Auto Connector/Graphic Patchbayによる再接続が必要です。  
..... 19、38ページ、Graphic Patchbayオンラインマニュアルの「mLAN接続設定」参照
- ・ ループ接続になっていませんか。ケーブルの配線をご確認ください。

### ループ接続の例



●: IEEE 1394 対応製品

- ・ コンピューター側のIEEE 1394 インターフェースに制限がある場合があります。同時に使うことができるポート数をご確認ください。
- ・ mLAN ネットワーク上のコンピューター以外の機器をすべてオフにして、コンピューターと1対1で接続し、トラブルの原因と予想される機器を取り除いてください。
- ・ (Windows) タスクバーの[ハードウェアの安全な取り外し]でmLAN Busを取り外したあとに、再度mLANを使用する場合はコンピューターを再起動してください。
- ・ (Macintosh) iBook、PowerBook で使用する場合には、mLAN機器とMacintoshをmLANケーブルで接続しmLAN機器の電源を入れてから、Macintoshを起動してください。
- ・ ワードクロックの設定はしましたか? オーディオのやりとりをしているノード間で、1台がマスター、そのほかのノードがスレーブになっていることを確認してください。  
..... Graphic Patchbayオンラインマニュアルの「mLAN接続設定」参照

## ■ コンピューターの処理が重い

## ■ コンピューターのCPUメーターに表示される負荷が大きい

### ■ 演奏がもたつく

- ・ 複数のS200機器を接続していませんか？ S200機器の数によっては、Graphic PatchbayでのmLAN接続動作に時間がかかる場合があります。

## ■ ワードクロックが外れたり、Auto Connectorが正常に終了できない

- ・ (Windows) Intel製Mobile CPU(ノートPC用CPU)の場合、SpeedStep™テクノロジーが使われていることがあります。mLANを使う場合はSpeedStep™テクノロジー機能を無効にしてください。SpeedStep™テクノロジーとは、CPU付加に応じて動的にCPUクロックを変動させ、消費電力を抑える技術です。

### SpeedStep™テクノロジー機能を無効にする方法

ほとんどのPCでは、BIOSでEnable/Disableを切り替えられます。詳細はPCのマニュアルをご参照いただくか、PCメーカーへお問い合わせください。

## ■ mLAN の設定を変更できない

- ・ (Windows) mLAN WDM ドライバーがシステムサウンドに選ばれていませんか？
  - ・ [スタート] → [コントロールパネル] → [サウンドとオーディオデバイス] → [音声]の[音声再生]と[音声録音]で「mLAN Audio Out/In 01」以外を選択します。
  - ・ [スタート] → [コントロールパネル] → [サウンドとオーディオデバイス] → [オーディオ]の[音の再生]と[録音]で「mLAN Audio Out/In 01」以外を選択します。
  - ・ [MIDI音楽の再生]で、[mLAN MIDI OUT] ~ [mLAN MIDI OUT(8)]以外を選択します。
- ・ (Windows) [スタート] → [コントロールパネル] → [サウンドとオーディオデバイス] → [サウンド]の[サウンド設定]で「サウンドなし」を選択して、再実行してください。
- ・ (Windows) mLAN を終了(タスクバーのmLAN アイコンを右クリックしてOFF を選択)できないときは、タスクマネージャーで以下のプロセス([Ctrl]+[Alt]+[Del] → [プロセス]を終了させてください)。
  - ・ mLANVDevice.exe
  - ・ mLANTFamily.exe
  - ・ mLANSoftPH.exe
  - ・ mLANManager.exe

再度mLANの設定を変更するには、[スタート] → [(すべての)プログラム] → [スタートアップ] からmLAN Manager を起動してください。

- ・ (アンインストール時にファイルが見つからないなど表示される場合)いったんインストールを実行してから、再度アンインストールしてください。

## ■ (Windows) mLAN Manager(タスクバーのmLAN アイコン) が消えてしまった

- ・ [スタート] → [(すべての)プログラム] → [スタートアップ] または[mLAN Tools] からmLAN Manager を選択します。

## ■ 接続したはずのmLAN機器が見えない

- ・ [表示]メニュー→[最新情報に更新]で情報を更新してください。それでも見えない場合は、mLAN Managerを一度OFFにしてから再度ONにして、[最新情報に更新]を行なってください。  
..... Graphic Patchbayオンラインマニュアルの「mLAN Graphic Patchbayの起動」参照

## ■ mLAN Graphic Patchbayの起動や、「最新情報に更新」に時間がかかる

- ・ S400未対応機器をmLAN接続/切断したあとにネットワークの情報を更新する場合、mLANの転送スピードを変化させる処理が発生するので、通常より時間がかかることがあります。その後の動作に問題はありません。
- ・ ネットワーク上にコンピューターを含めて5台以上のmLAN機器がある場合は、各機器から送信できるチャンネル数の合計が制限されます。サンプリング周波数が44.1kHz/48kHzの場合、Windowsでは最大86CH、Macintoshでは98CHです。



NOTE

- ・ 「音がでない」「ノイズが発生する」などの問題については、i88X/mLAN16E/MY16-mLAN取扱説明書のトラブルシューティングをご確認ください。

# 付属アプリケーションソフトウェアのユーザーサポートサービス(i88Xユーザーの方のみ)

## ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方をサポートし、関連情報をご提供するために、アプリケーションソフトウェア(含む付属アプリケーションソフトウェア)をご購入いただいたお客様を登録させていただいております。

つきましては、お手数とは存じますが、製品に同梱しております「ユーザー登録カード」に(シリアル No.ラベルを貼り付け)必要事項をご記入の上、至急ご返送くださいますようお願い申し上げます。弊社にてお客様の登録を行ない、折り返しユーザー ID番号をご案内いたします(ユーザー ID番号は、アプリケーションソフトをインストールする際に入力する番号とは異なります)。

このユーザー ID番号は弊社が以下のサポートをさせていただきます(際に必要な番号ですので、大切に保管してください)。

## ユーザーサポートサービスのご案内

サービスの種類によっては、CD-ROMディスク(以下ディスクと呼びます)の返送が必要になりますが、その際お送りいただいたディスクが弊社製品と確認できない場合、修復のサービスはお受けになれません。あらかじめご了承ください。

[ユーザー登録手続き]を完了された方に限り、以下のサポートを行なわせていただきます。

## 無償サポートサービスについて

### 1. ご購入時に正常に動作しないディスクの修復

製品には万全を期しておりますが、万一ディスクに記録されたプログラムなどの内容が、ご購入時にすでに破壊や欠損を起こしていただくために正常に動作しない場合、ディスクの内容を修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。

下記の「ディスク修復のお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

- 「ご購入時」とは製品をお求めただいてから14日以内とさせていただきます。
- お送りになる前に、お送りいただく旨を、必ず下記の「CBXインフォメーションセンター」まで電話でご連絡ください。

#### ディスク修復のお申し込み方法

- 1 修復に必要なディスクのほかに、「ユーザー登録用カード」に必要事項(ご住所、お名前、電話番号)をご記入の上、[動作の状態]などを明記した文書をご同封ください。宛先は下記の「CBX インフォメーションセンター」です。
- 2 返送の途中でディスクが破損しないように十分注意して包装してください(返送の途中でディスクが破損または紛失した場合、弊社では責任を負いかねます)。
- 3 ご返送には、郵便書留か宅配便をご利用ください(宅配便の場合は、着払[弊社負担]をご利用いただけます)。

### 2. プラグインエフェクトに関する質問の受付

「ユーザー登録手続き」を完了された方に限り、使用方法や関連情報などについて、電話やお手紙による質問をお受けいたします。下記の「CBXインフォメーションセンター」までお問い合わせください。

お問い合わせの際には、「製品名」、「ユーザー ID番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」を必ずご明示ください。また、「ご使用のパソコンの種類」、「操作の手順やそれによる結果と状態」、「入力されたデータの内容」なども詳しくお知らせください。お客様からの情報が不足している場合は、ご返事できない場合があります。

#### CBXインフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1  
ヤマハ(株)CBXインフォメーションセンター

TEL: 053-460-1667

● 受付日 : 月～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

● 受付時間 : 10:30～19:00

\* ユーザーサポートサービスは日本国内においてのみ有効です。



# 有償サポートサービスについて

## 1. 有償サポートサービスの内容

お客様が使用中にこのディスクを破損された場合、有償でディスクの内容を購入時と同等に修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。必要事項をご記入の上、手数料(¥5,000 消費税込み)と破損したディスクを添え「有償サポートサービスのお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

- 有償サポートサービスの受付期間は、お客様が本製品をご購入後、一年以内とさせていただきます。
- お申し込みになる前に、必ずCBXインフォメーションセンターまで電話でご連絡ください。
- ユーザー登録が完了されているお客様へのサービスです。

## 2. 有償サポートサービスのお申し込み方法

CBXインフォメーションセンター宛に直接お申し込みください。

このサービスは、お買い上げの販売店では、受け付けておりません。

- 1 下記の有償サポートサービスの[申込書]に必要な事項をもれなくご記入の上、手数料とともに、

CBXインフォメーションセンターまで現金書留にてお送りください。

\* お客様からの CBX インフォメーションセンターへの送料は、お客様にてご負担ください。

- 2 ディスクを送付される場合は、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」、「ユーザーID番号」を明記して、CBXインフォメーションセンターまで、郵便書留にてお送りください。なお、郵送の途中でディスクが破損しないように、十分注意して包装してください。

\*普通郵便などでお送りになられた際の事故につきましては、当社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

\*必ずご登録いただいた「ご住所」、「お名前」でお申し込みください。

\*お申し込みいただきましたディスク(または修復データを収録したフロッピー)は、手数料の確認の後、登録されたご住所に発送いたします。お申し込み後、2週間過ぎても製品が届かない場合は、CBXインフォメーションセンターまでご連絡ください。

**ディスクの紛失につきましては再発行はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。**

## <破損ディスクの修復申し込み>

有償サポートサービスの「破損ディスクの修復」の申し込みをされる場合は、下の申込書をコピーしてご使用ください。

TOOLS for i88X/mLAN16E, Plug-in Effect : 破損CD-ROM修復申込書	
ご住所	フリガナ □□□□-□□□□ 都道府県 市区郡 (マンション等の名称も必ずご記入ください。)
お名前	フリガナ ユーザーID番号
電話	市外局番 ( ) -
破損ディスク「TOOLS for i88X/mLAN16E, Plug-in Effect」CD-ROM	

破損ディスクの修復の手数料は¥5,000(消費税込み)です。  
ユーザーID番号も必ずご記入ください。

## 住所/氏名の変更(同一使用者の範囲内)

ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」などを変更された場合は、「製品名」、「ユーザーID番号」、「旧住所/旧氏名」、「新住所/新氏名」を明示の上、ご面倒でもCBXインフォメーションセンターまで郵便でご通知ください。折り返し手続き完了のご連絡をさせていただきます。

### ■ ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、〈ソフトウェア使用許諾契約〉を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

ディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。

ご同意いただけない場合は、未開封のまま速やかに(14日以内)ご返却ください(ただし、本ソフトウェアをソフトウェアパッケージの一部として、またはハードウェア商品の付属ソフトウェアとしてお求めいただいた場合、本ソフトのみの返却はお受けいたしません)。

### ソフトウェア使用許諾契約

#### 1. 著作権および使用許諾

弊社はユーザー登録されたお客様に対し、本ソフトウェアを構成するプログラム、データファイルおよび今後お客様に一定の条件付きで配布され得るそれらのバージョンアッププログラム、データファイル(以下「許諾プログラム」といいます)を、お客様ご自身が一時に一台のコンピュータにおいてのみ使用する権利を許諾します。これらの許諾プログラムが記録されているディスクの所有権は、お客様にあります。許諾プログラム自体の権利およびその著作権は、弊社が有します。

#### 2. 使用制限

許諾プログラムは著作権を持つ情報を含んでいますので、その保護のため、お客様が許諾プログラムを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他の方法により、人間が感得できる形にすることは許されません。許諾プログラムの全体または一部を複製、修正、変更、賃貸、リース、転売、頒布または許諾プログラムの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。許諾プログラムをネットワークを通して別のコンピュータに伝送することも許されません。

#### 3. 終了

本使用条件はお客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。本使用条件による使用許諾は、お客様が著作権法または本使用条件の条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに許諾プログラムとその複製をすべて廃棄しなければなりません。

#### 4. 製品の保証

弊社は、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日から14日間に限り、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。

#### 5. 責任の制限

弊社は、許諾プログラムの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失など)による損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生や第三者からの賠償請求の可能性があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

#### 6. 第三者のソフトウェア

弊社は、本ソフトウェアとともに、第三者のプログラム、データファイルおよびそれに関するドキュメンテーション(以下「第三者ソフトウェア」といいます)を提供する場合があります。別の規定に従い取り扱われるべき旨の記載が、本ソフトウェア付随のマニュアルに記載されている場合には、本使用条件にかかわらず、その別の規定に従い取り扱われるものとし、弊社によるアフターサービスおよび保証などについては、以下の規定が適用されるものとします。弊社は、第三者ソフトウェアに関しての操作方法、瑕疵その他に関してアフターサービスを提供するものではありません。

弊社は、第三者ソフトウェアの商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証を、明示であると黙示であるとを問わず、一切いたしません。第三者ソフトウェアの使用もしくは機能から生じるすべての危険は、お客様が負担しなければなりません。

弊社は、第三者ソフトウェアの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失など)による損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

#### 7. 一般事項

本契約は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。

# お問い合わせ窓口

## ■ 商品に関するお問い合わせ窓口

i88Xをお使いの方：

CBXインフォメーションセンター

◆ TEL : 053-460-1667

◆ 受付日：月曜日～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）

◆ 受付時間：10:30～19:00

<http://www.yamaha.co.jp/supportandservice/index.html>

mLAN16Eをお使いの方：

ヤマハデジタルインフォメーションセンター

◆ TEL : 053-460-1666

◆ 受付日：月曜日～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）

◆ 受付時間：10:30～19:00

<http://www.yamaha.co.jp/supportandservice/index.html>

MY16-mLANをお使いの方：

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

◆ TEL: 03-5791-7678 FAX: 03-5488-6663

◆ 電話受付日：月曜日～金曜日（祝日を除く）

◆ 受付時間：11:00～19:00

ONLINE support: <http://proaudio.yamaha.co.jp/>

## ■ 営業窓口

### i88X、mLAN16Eをお使いの方：

#### EM 営業部

企画推進室

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL. (03) 5488-5430

#### EM 営業部 各地区お問い合わせ先

EM北海道

〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50

(ヤマハセンター)

TEL. (011) 512-6113

EM仙台

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10

TEL. (022) 222-6147

EM東京

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL. (03) 5488-5471

EM名古屋

〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28

TEL. (052) 201-5199

EM大阪

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9

(心斎橋プラザビル東館)

TEL. (06) 6252-5231

EM九州

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL. (092) 472-2130

#### PA・DMI 事業部 営業部

MP営業課

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

TEL. (053) 460-2432

- ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ  
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>
- ヤマハマニュアルライブラリー  
<http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>
- 「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」  
ミュージックイークラブ・ドットコム  
<http://www.music-eclub.com/>
- よくあるご質問(Q&A/FAQ)  
<http://www.yamaha.co.jp/supportandservice/index.html>

### MY16-mLANをお使いの方：

#### 国内楽器営業本部 EM 営業部

企画推進室

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL. (03) 5488-5430

#### PA・DMI 事業部 営業部

MP営業課

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

TEL. (053) 460-2432

※ 名称、住所、電話番号、URLなどは変更されることがあります。



この取扱説明書は  
大豆油インクで印刷しています。

この取扱説明書はエコバルブ (ECF: 無塩素系漂白  
バルブ) を使用しています。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

# ヤマハ株式会社

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation

© 2004 Yamaha Corporation

WD50920 409APAP1.2-01A0 Printed in Japan